寂韻

Vol.31

東北大学学友会囲碁部

目次

■ 2018年度

学生本因坊全国大会…… 3
女子学生本因坊全国大会…… 5
学生十傑全国大会…… 8
学生王座戦……１０
大学選手権全国大会……１３
東北六県囲碁大会……２０
国際アマチュア・ペア碁選手権大会東北予選……２２

■ 2019年度

学生本因坊全国大会……２４
女子学生本因坊全国大会……２６
学生十傑全国大会……２８
学生王座戦……３２
国際アマチュア・ペア碁選手権大会東北予選……３４

■ その他

コラム1…… ３６
コラム2…… ３８
2019年新入部員紹介……３９

■ 2020年度

学生本因坊全国大会……４０

■ 2021年度

女子学生本因坊全国大会……４３
学生十傑全国大会……４５
学生王座戦……４８
大学選手権全国大会……５１

金沢大交流戦……………………………………………………………………６６

■その他

コラム………………………………………………………………………６８
2020 年・2021 年新入部員紹介………………………………………………… ７１
編集後記……………………………………………………………………７３

2018 年度　全日本学生本因坊決定戦

2018 年度学生本因坊戦は、東京の日本棋院で 8 月 3 、 4 日に行われました。本大会は、以前は地方で行われることもありましたが、最近はもっぱら関東、関西で開催されることが多くなりました。私にとっては 1 年生のときに出場して以来 2 回目の出場となりました。また、4 年生として、出場できる最後の年の大会だったのでいつも以上に気合を入れて臨みました。

東北地区予選では、リーグ戦 6 回戦を行い上位 3 人に入ると全国大会に出場することができます。私は 1 回戦からいきなり優勝候補の 1 人である五十嵐と当たってしまいました。今までの対戦成績では、分が悪かったですが、このときは上手く打てたこともあり、勝つことができました。その後、順調に勝ち進めることが出来ましたが、4 回戦でもう 1 人の優勝候補である及川と当たり、実力のままに負けてしまいました。それでも、その後何とか勝つことができて、5 勝 1 敗という成績を残すことが出来ました。6 回戦が終了して 5 勝 1 敗で五十嵐、及川、私の 3 人が並び、その 3 人が東北代表になりました。また、SOS の差で五十嵐が優勝を果たしました。優勝した五十嵐は 2 回戦以降強敵に勝ち続け SOS を稼ぎ、初戦で負けたとは思えない圧倒的な SOS で優勝しました。また、東北代表は学本、女学ともに全員が東北大生となりました。

全国大会は、東北代表全員で新幹線で移動し、会場に着くと関東地区代表として出場していた旧友の K 田ではないほうの Y 樹と再会するなど、リラックスした状態で望むことが出来ました。1 人ずつ決意表明を行ったあと、1 回戦が始まります。抽選の結果 3 人とも 1 回戦から関東勢と当たるという不運に見舞われました。対戦相手を聞いて半ば諦めかけますが、最初からメンタルで負けていては勝てないと気合を入れて臨みました。しかし、対局は序盤から非常に苦しい形勢に立たされてしまいました。自分から仕掛けていったものの知らない定石を打たれて長考してしまい、持ち時間とともに不利な状況に追い込まれてしまいました。中盤早々にはすでに勝負手を打たなくてはならない状況になりましたが、その勝負手が功を奏して相手の石を取る事ができました。これにより形勢が接近したものの、序盤に大量に時間を消費してしまっていたため、途中で時間が切れて負けてしまいました。反省点として、苦手な序盤で積極的に仕掛けて行った結果返り討ちにあって形勢を悪くしまったことが挙げられます。序盤を簡明に打ち、時間を残して中盤以降で勝負するべきだったと思います。

大学生活最後の学本が時間切れで終わってしまったことはとても残念でした。また、全国大会で 1 回戦を突破することが出来ずに終わってしまったことがとても悔しいです。対局自体は多くの課題が見つかったので、今後に生かしていけたらと思います。

（文責：千田渉太）

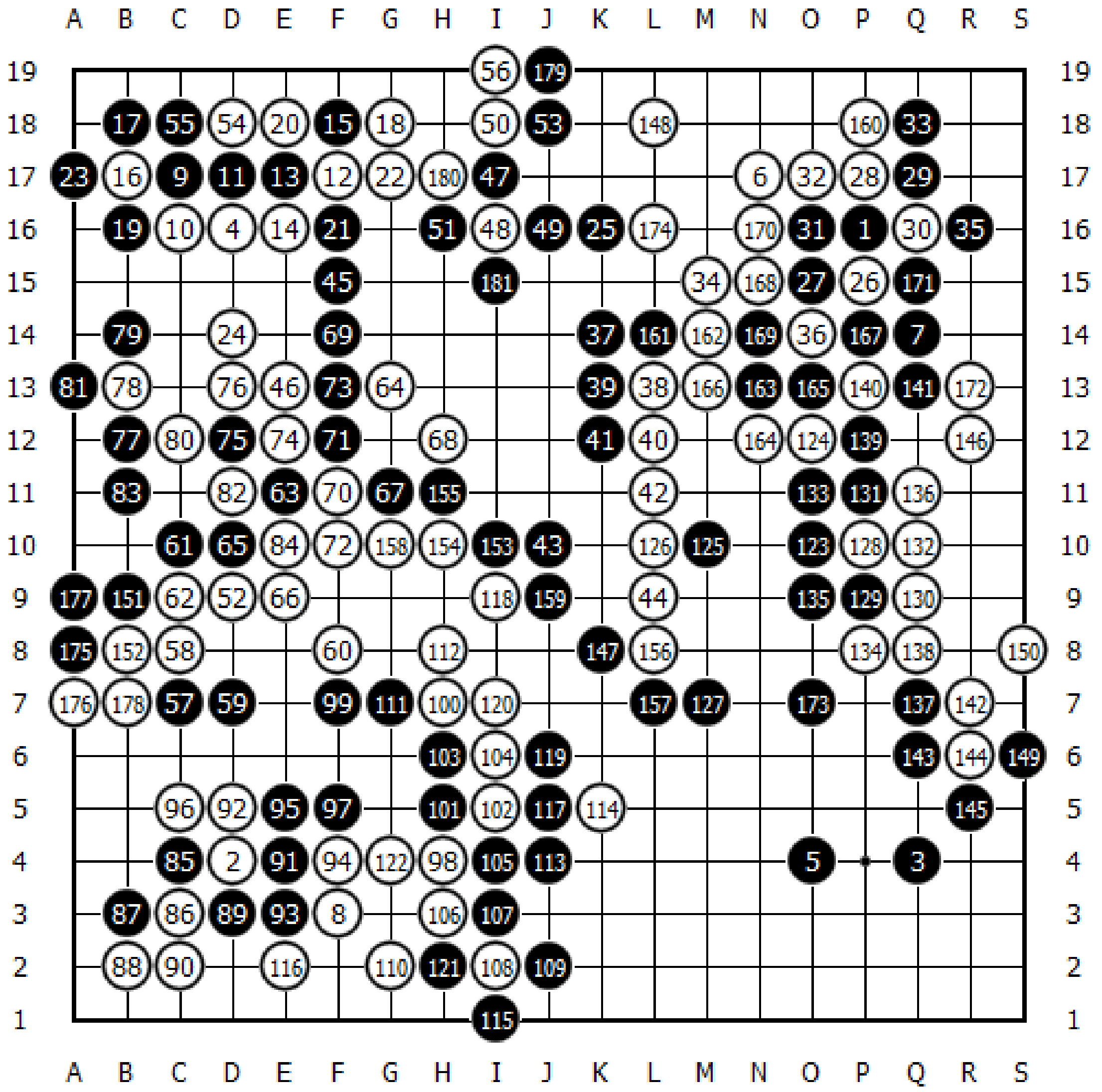
2018 年度　学生本因坊全国大会　1 回戦

黒　角田　大典

白　千田　渉太

結果　黒時間切れ勝ち

総譜(1~181)



2018 年度　全日本女子学生本因坊決定戦

今回の全日本女子学生本因坊決定戦は、大学に入学して２回目の大会でした。昨年は東北大会で勝ち全国大会に出場することができたけれど、全国大会では強い方々ばかりで１回も勝てず、とても悔しい思いをしました。そのため、今回こそは東北予選を突破して、全国大会で１回は勝ちたいと考えていました。またそれに加え、東北大会では絶対に負けられないという気持ちがあり、とても緊張していました。

東北大会当日、女子学生本因坊戦には私と東北大学の後輩の真瞳子ちゃんと他大学の方の３人が出場していました。１回戦は真瞳子ちゃんと他大学の方が対局することになりました。対局を見ていて、真瞳子ちゃんとは数回対局したことがあり、とても強いということは知っていたけれど、以前対局したときよりもさらに実力が上がっており鋭い手をたくさん打っていて、その強さを改めて実感しました。結局、１回戦は真瞳子ちゃんが勝ちましたが、対戦相手の方も十分強く決して油断はできないと思いました。２回戦は私と他大学の方が対局することになりました。序盤はもともと得意だったこともあり、その対局でも上手く打つことができました。しかし中盤は苦手なため、前半でリードした差を詰められてはいけないという緊張感からミスをしてしまい、石が取られてしまいました。終盤に入るころには少しリードしているか互角であり、ヨセでは細かいミスをしないように丁寧に打ちました。結局、その対局は僅差で勝つことができとても嬉しく思いましたが、内容はあまり良くありませんでした。しかし１勝できたため、目標としていた全国大会への出場を決めることができました。この２回戦では、内容は良くなかったもののしっかりと勝ち切ることができたため、対局でのミスを活かして、３回戦では気持ちを切り替えて全力を出し切ろうと思いました。３回戦では、私と真瞳子ちゃんが対局しました。すでに全国大会への出場が決まっていたため、この対局では緊張せずに落ち着いて打つことができました。序盤から自分のペースで打て、中盤では相手の石を攻めながら打つことができ、終盤に入るときには少しリードしていました。終盤でもミスがなく、一局を通して今までで一番と言っていいくらいに上手く打つことができ、実力以上の力を出せたため、３回戦も勝つことができました。東北大会では全勝することができ、内容も１局目は良くなかったけれど２局目はしっかりと修正することができ、全国大会への出場も決まったので、全体としてはとてもいい結果で終わることができました。

８月に入り、ついに全国大会の日になりました。初日には、まず昼食を食べながら決意表明をし、その後対局が始まりました。１回戦で対局した相手の方は関東代表の方で高校のときから知っており、対局できたことがとても光栄でした。全力を出して頑張ったけれど相手の方が想像以上に強く、序盤でつけられた差が最後まで縮まらず、中押しで負けてしまいました。対局後の検討では、対局中に考えもしなかった手を教えていた

だき、勉強になりました。２回戦も自分としてはうまく打て、内容も悪くはなかったけれど実力が足りずに負けてしまい、とても悔しい思いをしました。次の日の３回戦では、相手の方の事情により不戦勝となりました。せっかくの全国大会だったので強い方と打ちたいと思っていたので、対局できなかったことは少し残念だったけれど、勝ちという結果になったので嬉しく思いました。

今回の全日本女子学生本因坊決定戦では、たくさん囲碁について学ぶことができ、不戦勝という形ではあったけれども、全国大会で１勝するという目標を達成できました。また、同じ東北代表の真瞳子ちゃんも２回戦で１勝し、３回戦も有名な強い方に僅差まで迫っていてすごいと思いました。東北の２人とも１勝できて嬉しかったし、この大会に参加してとても良い経験をすることができたと思います。勝ったことも負けたことも含め、今回の経験を活かして今後もたくさん囲碁を打って、もっと強くなりたいと思います。

（文責：座主悠香）

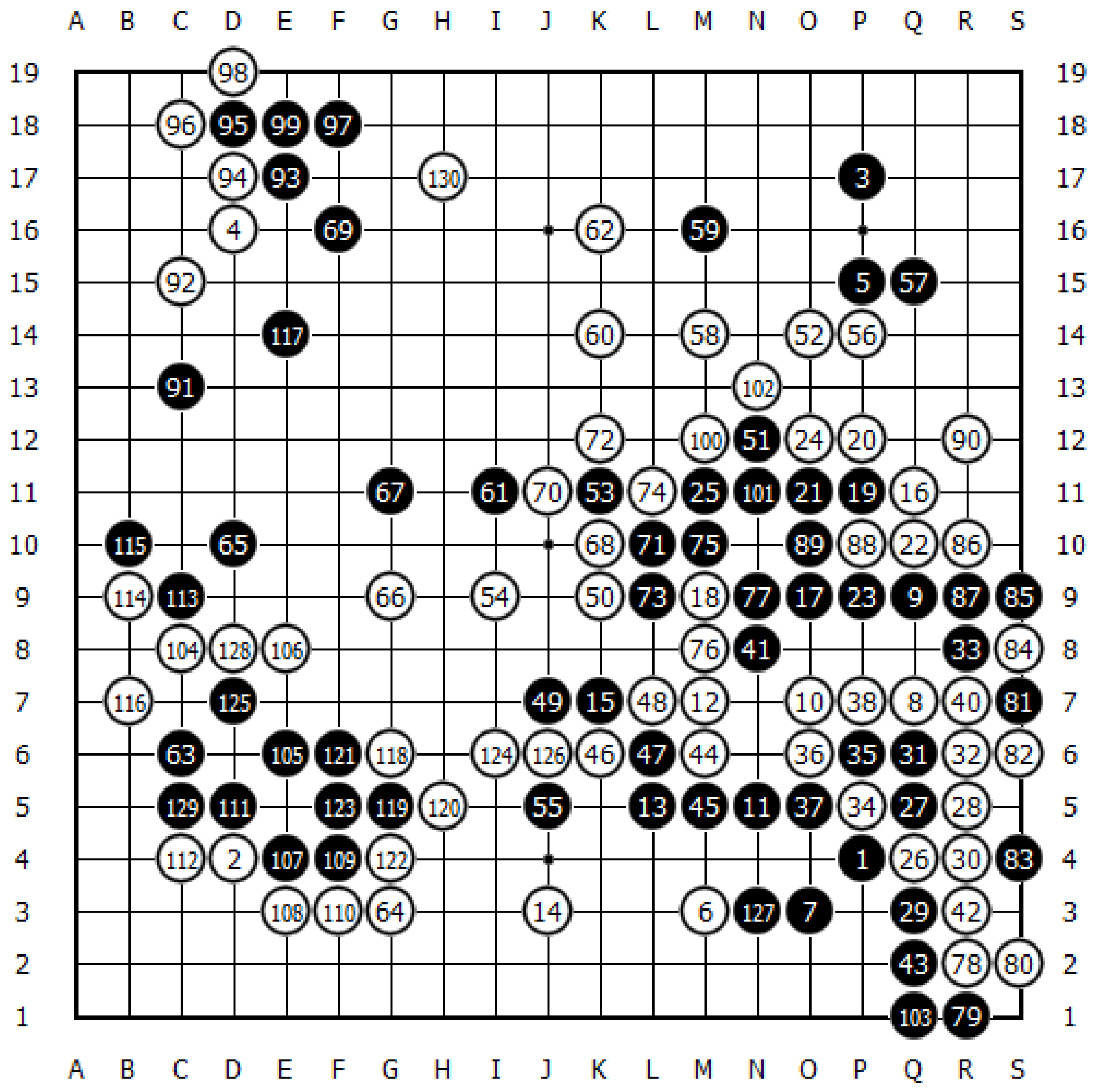
2018 年度　女子学生本因坊決定戦　二回戦

黒　座主　悠香

白　齋木　果穂

結果　白中押し勝ち

総譜(1~130)



39 P5

2018 年度　学生十傑戦

　学生囲碁界の主要大会の一つである学生十傑戦。我々東北に住んでいる人からしたら、開催地が京都であるという点でも是非全国大会への切符をゲットしたいものです。
　全国大会に先立つ地区予選の結果、東北代表は先輩の外柳開理さん、高校生の山口君と私五十嵐に決定しました。

　前夜祭での抽選の結果、私の対戦相手は広島大の田中さんに決まりました。中四国地方の代表の常連であり、非常に大変な相手ですが、本大会のとんでもない出場者たちのことを考慮すれば、まだましな相手とも言えます。
　白番を引いた私は、序盤から普通の手しか打っていないのに評価値が下がり続ける村人あるある(?)な苦しい展開となってしまいます。中盤の入り口あたりで盤面全体に波及する戦いが勃発しましたが、その戦いも面白くない展開が続きました。このままでは負け方がネタ枠になりかねない私は各所の白をぼろぼろにしながらもなんとか大石同士の攻め合いに持ち込むことに成功します。この辺りはお互い十秒碁で、頭膝時計をたたく闇試合となりました。結果、黒の大石を召し取ることには成功したものの、攻め合っていた白石のしっぽをちぎられ、さらに各所の弱い白に寄り付かれてしまい、逆転には至りませんでした。

　東北勢は全員一回戦敗退という結果に終わりました。本大会は、結果としては残念でしたが、自分が今後直していくべき部分を明確にできました。また、今まで交流のなかった選手の方々とも今回たくさん交流できたので非常に有意義な大会だったと思います。

（文責：五十嵐壮太）

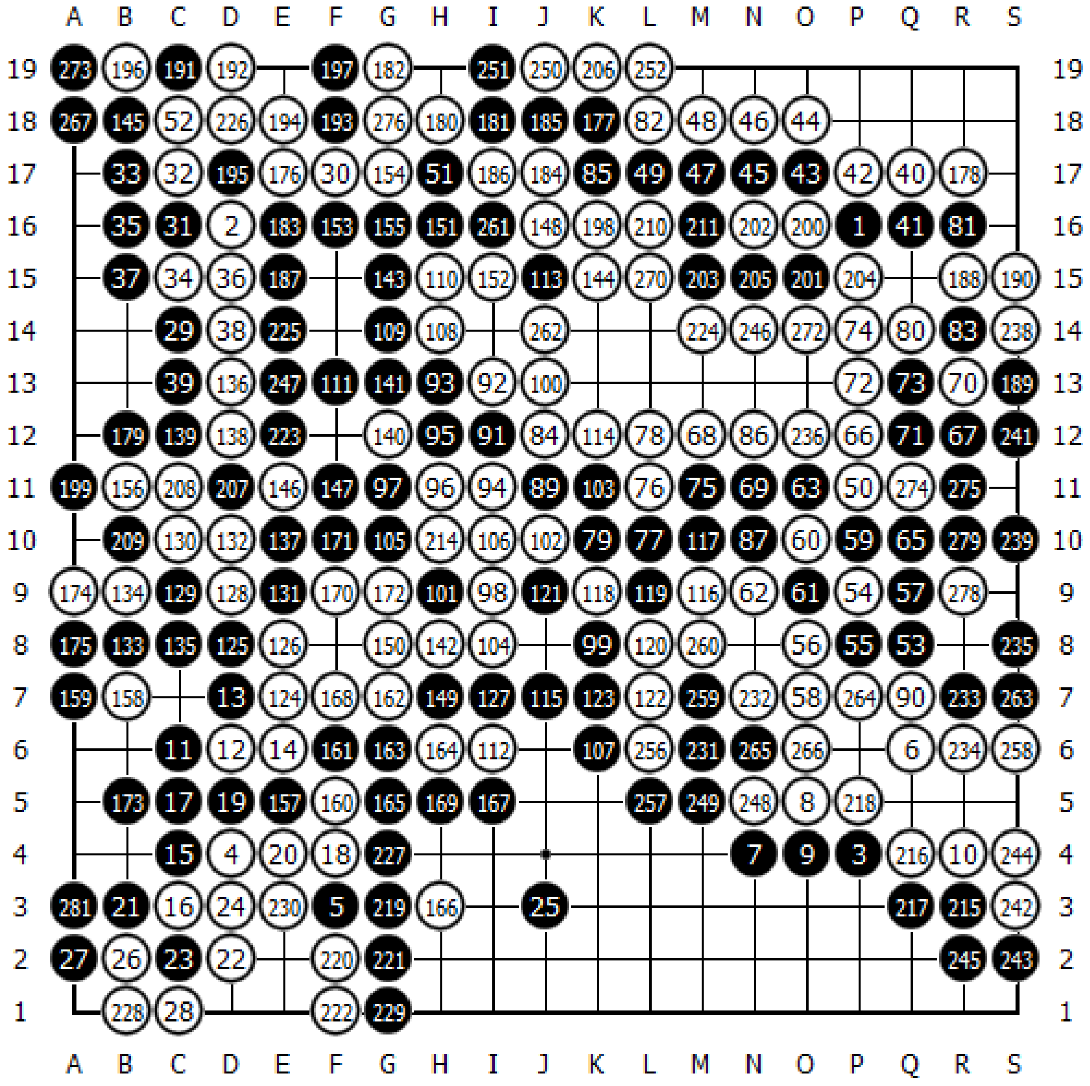
2018 年度　全日本学生囲碁十傑戦　一回戦

黒　田中　恒

白　五十嵐　壮太

結果　黒 14.5 目半勝ち

総譜(1~282)



64 P9　88 O9　212 O16　213 D11　237 K9　240 R13　253 D17　254 D16　255 D15

268 R14　269 D17　271 D16　277 C19　280 B19　282 C19

第 17 回　全日本学生囲碁王座戦

全日本学生囲碁王座戦は、各地区の予選を通過した選手と同年度の各学生棋戦の優勝者で本戦ネット対局を行い、そこを勝ち上がった 16 名で本戦リアル対局にて優勝者を決める学生棋戦である。2018 年に行われた今回の第 17 回大会では、各地区の代表者数が見直され、東北地区は前年の代表枠 6 名から代表枠 2 名へと減少した。これまでよりも枠抜けが難しくなった今大会であったが、運よく東北地区の 2 枠の代表枠に残ることができ、11 月 25 日に行われたインターネット本戦へと進んだ。

インターネット本戦では、参加する 32 人が 8 人ごとに 4 つブロックに分けられ、ダブルイリミネーション（2 敗失格の変則トーナメント）の形式で各ブロック 4 人のリアル本戦出場者を決める。私の初戦の相手は北海道地区代表の道川氏であった。同年に行われた学生十傑戦で同部屋になり、少し顔見知りになった相手だったので対戦を楽しみにしていた。

対局当時は Alpha Go を始めとした囲碁 AI の活躍が目覚ましく、私もその AI の画期的な戦法の虜となり、よくその手を真似ていたことは覚えている。しかし、AI の手をしっかり研究する“AI 流”の打ち方というよりは、ただただ AI っぽい手を真似して打ってみているだけの“AI 風”の打ち方になってしまっていたように思う。ではその棋譜を leelazero という囲碁 AI ソフトの評価値を参考にしながら振り返っていくことにする。

こちらの白番となり、相手の二連星に対して、こちらは三々と小目の布石。これはこの当時白番でよくやっていた布石だが、今思い返すとあまり勝率はよくなかったように思う。白 6 のケイマ受けや 8 の Early 三々、16 のカタツキなどは正に Alpha Go がなければ打っていなかった手で当時の自分が囲碁 AI に大きな影響を受けていたことが分かる。白 20 の打ち込みに対して黒 23 のツケから隅で納まったのは少し疑問。白は下辺を盛り上げて白好調な立ち上がりに思える。黒 35 もまだ B15 からのサバキの筋が残っているので、左下を急いだほうが良かっただろう。白 36 と黒三子を挟み攻めていき、この時点で leelazero の評価値は白が 70%を超えている。はっきりと白優勢といっていい。ただここから悲劇が始まる。黒 37 のハネに対し、ツケコシやコスミツケを嫌がり押さえを打てなかったのが良くない。当初の黒を攻めるという構想と矛盾することになってしまう。実戦は黒 39 のツケに白 46 まで決め、キリを嫌がり白 48 とかけついだ。しかし、ここも隅を押さえて根拠を奪うのが最優先だった。白 52 の二段バネも悪く、左辺の白三子が窮屈になっていく。黒 57 のハネに白 58 と戻ったのも気合が悪く、黒に先に左辺に回られてしまう。この時点で評価値は黒が 50%を超え、白は劣勢に立たされた。しかし、黒 69 の押さえはやり過ぎでキリに回ればまだ白は戦えたが、白 70 と打ってしまい黒 71 に守られてしまう。最後は黒 83 のコスミに気づかずにひどい有様になった。評価値も黒 90%超えでこのあと足掻いてはみたが遠く及ばず。次の関西地区代表の波多野氏との試合も序盤で悪くして挽回できずに敗北、リアル本戦への出場は叶わなかった。

　私の在学中は個人戦の東北地区の代表はなかなか全国で活躍できずにいた。学生囲碁界において関東地区、関西地区の学生が強いのは、情報のアドバンテージがあるからというのは一つの大きな要因だと思う。プロ棋士やアマ強豪に頻繁に会って指導が受けられる環境がある都市部では、常識となっているような手を、地方の学生は知らないということが往々にして起こるのだ。しかし、囲碁 AI の普及により、地方の学生でもパソコン 1 台あれば最強の講師に教えてもらうことができる。これにより今後、地方と都市部との実力格差はかなり縮まっていくのではないかと予想する。囲碁 AI で勉強した全く無名の地方学生がいきなり全国優勝する、そんな未来はもうすぐそこまで来ているのかもしれない。最後に、Covid-19 の影響で、インターネットでベスト 4 まで実施された学生本因坊戦においてベスト 4 に勝ち上がっている東北大、五十嵐がその先駆けになることを願って私の最後の寂韻の記事を終えようと思う。

（文責：外柳開理）

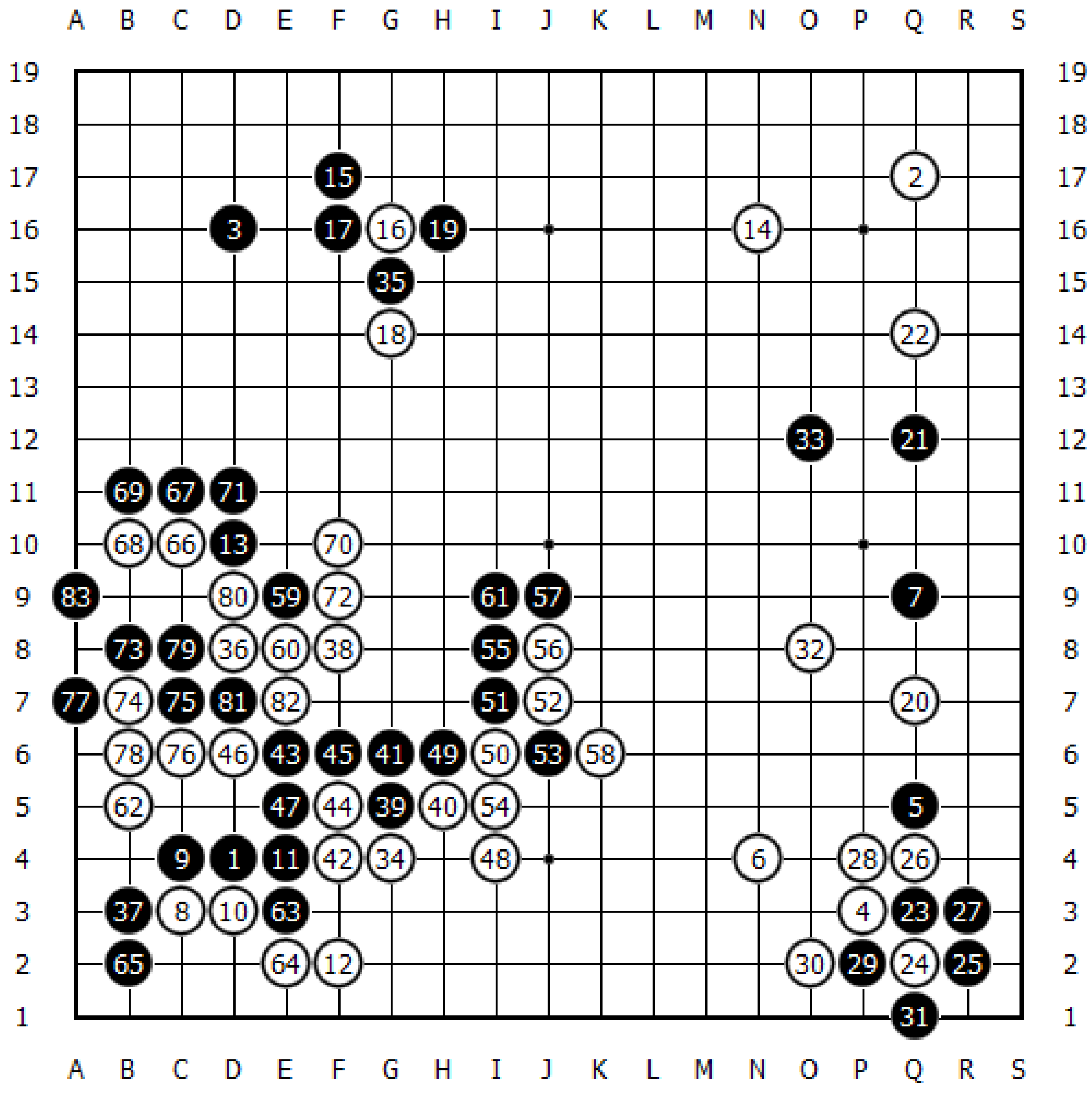
2018 年度　全日本学生囲碁王座戦

黒　道川　伊織

白　外柳　開理

結果　黒中押し勝ち

総譜(1~83)



第 62 回　全日本大学囲碁選手権

2018 年 12 月 23 日～26 日に行われた第 62 回全日本大学囲碁選手権の記事は、当時 4 年生として大会に出場した千田と外柳の 2 人で担当する。前半の 1 日目と 2 日目は千田が、後半の 3 日目と 4 日目は外柳が執筆し、印象深い対局についてそれぞれが 1 局ずつ取り上げて解説することとした。解説はあくまで個人的見解になってしまうところご容赦いただきたい。

全日本大学囲碁選手権は 8 つの地区の代表校が 4 日間で計 7 局の総当たり戦を行い、優勝を争う。近年では、関東・関西の層の厚さに地方勢は太刀打ちできず、関東・関西の大学による優勝争いと地方大学の 3 位争いという構図ができあがっている。東北大学は、前年度に 8 年ぶりとなる 3 位入賞を果たした。そのうちのレギュラー4 人は本大会にも引き続き出場しており、前年度以上の成績を目標として大会に臨んだ。特に、関東地区代表の早稲田大学と関西地区代表の立命館大学には前年度は 0－5 と完敗だったので、両校にどれだけ土をつけられるかということは今回の大きな課題である。

東北大のメンバーは部内リーグの成績順に、及川、五十嵐、千田、外柳、山村、齋藤、山本の 7 人。オーダーの作戦としては、部内リーグの上位者を副将～四将の中央に配置し、副将・五十嵐、三将・及川、四将・千田の真ん中 3 つでできるだけ勝ちを稼ぎにいく。格上に一発入れる力のある外柳を主将に、五将には予想される相手のオーダーに応じて齋藤、山村、山本の 3 人のうちから 1 人を選出する。部内リーグ上位者を補欠に配置し、対戦相手のオーダーによって臨機応変にオーダーを組み変えることができる補欠作戦を使わず、あえてオーダーを固定する作戦は前年度も用いた。対戦相手にオーダーがばれてしまう一方で、オーダーについて一戦一戦考える必要がなくなり、目の前の試合に集中して臨むことができる。前年度はこの作戦が功を奏し、3 位になることができたので本年も採用した。

第 1 戦の相手は中部地区代表の岐阜大学。初戦から負けるわけにはいかないと気合を入れて臨んだ。が、ここでアクシデントが発生。岐阜大学の四将と五将が開始時間に間に合わず、試合がスタートしてしまう。その後も現れることなく大会の規定の時間が経過し、四将・千田と五将・山村は不戦勝となった。山村は初めての全国大会での対局を打つことができずに終わってしまい、残念そうであった。その他の試合はというと、主将戦は外柳が岐阜大学のエース・平野と対戦。黒番の平野がやや有利な展開で進んだ最終盤に白地に手を付けられコウにされたのが決め手となり、平野の 15 目半勝ちとなった。副将戦(五十嵐 vs 國島)はフリカワリで優勢を築いた五十嵐がそのまま逃げ切って 11 目半勝ち。三将戦(西山 vs 及川)は及川が序盤から実力差を見せ、危なげなく勝利した。東北大は 4－1 で幸先よく勝利し、1 日目を終えた。

2 日目の午前中の第 2 戦は広島大学。前年度は 2－3 で敗れており、雪辱を果たしたいところである。また、私の対戦相手は前年も同カードで対戦し、敗れた相手であったため個人

的にもリベンジに燃えていた。その対局について少しコメントしてみたいと思う。主将がニギって、私が黒番である。白 6 の 3 間バサミに対して黒はカケから左下へとカカり左辺の白 1 子を大きく睨む。白 12 とコスミツケてきたので黒は 13 ノビから 15 と左辺の白にカタツいた。上部の黒 3 子は 4 線のオシが効いていて厚いので、そちら方面に白を押し付けようという意図である。白も 20 まで中央に進出し、黒は 21 と自身の安定を図りながら白の根拠を奪う。白が 22，26 と黒の形を崩し、28 と切断を狙ってきたとき、黒は 29 から手を付け、隅で生きることによって連絡する手を省略したかったが、ここでは単に黒 36 と守っておくほうがよかったかもしれない。隅で生きることはできたが、白 44 にノビられて黒 7 子が浮いてしまった。黒 51 のアテでは 54 とノビるのが形。白 54 のキリから 56 とノビきられて双方弱い石を抱え、難しい競り合いが始まった。ただ中央に白石が来たことによって左辺の黒石の目が危うくなり、この辺りでは少し苦しいと感じていた。その後黒 119 までようやく戦いが一段落したが、その次の白 120 がどうだったか。黒 8 子をツナぐ交換になれば中央黒の目を取る意味合いがある。しかし実戦のように黒は 8 子はツナがずに右辺へ先着し、右辺の拡大とともに中央の白への攻めを仕掛けることができては、少し手応えを感じた。それでも形勢は細かく、ヨセ勝負の末に黒 4 目半勝ちを収めた。

そのほか、三将戦では及川が安定の勝利を収め、主将戦・五将戦では惜しくも敗れる結果となった。2-2 で迎えた副将戦は、五十嵐と広島の 1 年生エースの竹田の注目の一戦。対局が終わった双方のチームメイトが見守るなかで最後に半目勝負を制したのは五十嵐であった。この 1 勝によってチームは 3－2 で勝利。五十嵐の勝利がチームの大きな 1 勝を掴んだ。本来であればこの対局を解説したいところではあるが、連盟のホームページを見ると、ほとんどの対局の棋譜が掲載されているにも関わらず、この対局に限って棋譜が残っていない。非常に残念である。

2 連勝で迎えた 2 日目午後の第 3 戦の相手は金沢大学。金沢大学は第 2 戦で早稲田大学から副将と五将の 2 枚を抜き、勢いに乗っている。補欠作戦を用いており、相手のオーダーを読むのが上手いチームだ。対東北大戦では、補欠の西村(健)を主将に、山田を四将に投入してきた。副将・三将は捨てぎみにして主，四，五将戦で勝負する作戦だ。

副将戦(前島 vs 五十嵐)・三将戦(及川 vs 稲永)は、やはり少し実力差があったか、序盤から五十嵐と及川共に順調に打ち進め、隙を見せない立ち回りで快勝。主将戦（外柳 vs 西村(健))は大きな戦いが起こらず細かいヨセ勝負になるかと思われた矢先、白の西村が死活の手入れを誤り大石が頓死してしまった。その後、黒の大石を取りに行く勝負手を放つも外柳は冷静に対応し、黒中押し勝ち。四将戦(山田 vs 千田)は黒番の山田が模様をはり、白が入る展開になった。なんとかサバいて白は生きを確保したが、それでも形勢は互角でヨセ勝負に。双方にヨセでミスがあったと思われるが、幸運にも半目勝ちを掴んだのは白だった。五将戦(齋藤 vs 萩原)では早稲田を倒して勢いのある萩原を前に敗れるも、チームとしては 4－1 での勝利となった。ここまで東北大は土つかずの 3 連勝で 2 日目を終えた。

（文責：千田渉太）

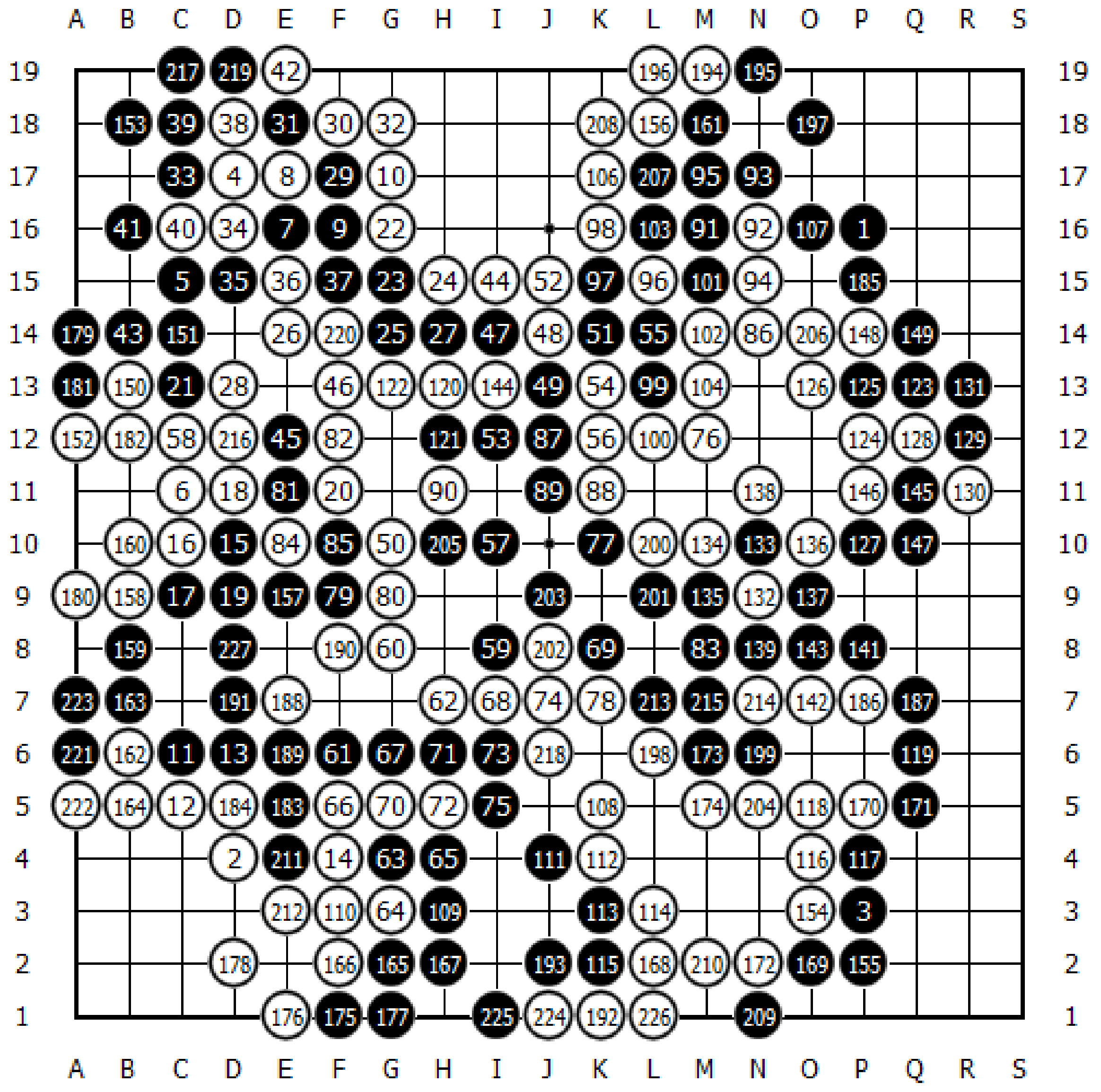
2018 年度　大学選手権　VS 広島大学　四将戦

黒　千田　渉太

白　大川　夢月

結果　黒 4 目半勝ち

総譜(1~227)



105 L15 140 N10

ここからは第 62 回全日本大学選手権で東北大学の主将を務めた外柳が後半の 25 日、26 日に行われた対戦について記す。個人名などについてはすべて敬称略とさせていただく。

改めて東北大のオーダーについて触れておく。今年度の東北大のオーダーは部内リーグで上位三名の及川、五十嵐、千田(渉)をそれぞれ三将、副将、四将として真ん中 3 つを抜きに行くようなオーダーを組んだ。主将は部内リーグ 4 位の外柳が務め、五将と補欠 2 枠は同率 5 位の齋藤、山村、山本が務めた。自分が主将となったのは、捨て気味の主将に対して確実に勝てる、かつ強い主将に対してもワンチャンスありそうという理由だ。五将の位置を 3 人でいけそうな人が回しながら残りは固定というオーダーで今年度の選手権へと臨んだ。

24 日までで岐阜大、広島大、金沢大に対して 3 連勝で迎えた大会 3 日目となる 25 日、この日の午前の対戦相手は九州地区代表、九州大学であった。九州大学は 24 日までに早稲田、立命から 2 枚抜きを達成したエースの寺下を補欠に入れ、狙った選手に対してぶつけていくオーダーの組み方をしていた。九州大学は前日の 2 試合で三将に補欠の寺下を入れていたので、今回も三将の及川に対してぶつけてエース対決になるだろうというふうに読んでいたのだが、実際に寺下が座ったのは副将五十嵐の正面であった。

まず自分の対戦である主将戦だが、相手の九州大・中島はここまで勝ち星をあげられておらず、実力的にも自分の方が上だと思われたので、この試合は負けられないというプレッシャーを感じての対局だった。にぎりの結果のこちらの黒番。無難な進行が続き、大きな戦いが起こらないまま大ヨセに入り、最も大きいヨセに先に回ることができた。結果、6 目半差で勝利を収めた。五将戦の東北大・山村と九州大・友田の補欠対決には敗れ、四将戦の東北大・千田と九州大・上村の対局は千田が危なげない試合展開で 15 目半の勝利、これで 2 勝 1 敗となり、勝負の行方は副将、三将戦に託された。副将戦、東北大・五十嵐 VS 九州大・寺下、三将戦、東北大・及川 VS 九州大・坂井の勝負はどちらもかなりの接戦だったが、それぞれ半目負け、1 目半負けとわずかに届かず、東北大学は初めての敗戦を喫した。

3 勝 1 敗で迎えた第 5 戦、25 日午後の対戦相手は関東地区代表、早稲田大学。自分が入学してからは関東、関西の代表校には全て 0-5 で負けているので一矢報いたいところ。自分が出場した主将戦は早稲田大・星合との対局となった。その対戦を振り返っていこうと思う。こちらの白番。このとき白番でよく打っていた星と三々の布石で展開していく。黒は三々入りから白 12 のハネに対し、手抜いて右上のシマリに向かった。左上を白 20 までで先手で切り上げ、左下の三々のシマリで左辺を大きく広げていく。黒は 23 のツケからサバキに来る。こちらは 26 のハサミから攻めていく。白 34 で隅を押さえ根拠を奪ったが、一度 35 に押した方が良かった。黒 43 まで上から押さえつけられ、五線を這っているが幅が狭く、左上の白の厚みも働き辛くなってしまった。白 44 で右下の小目へ掛かり、黒は 57 まででコウを仕掛けてきた。59 がコウダテになるという判断だが、ここは右下を取りきってしまうのが大きい。左辺は 65 までの進行は白好調。ただ白 66、黒 67 の交換は保留しておくべきだった。黒番からも手を付けづらいところなので、一目を抜いて上辺を厚く打つか、左辺の白 4 子を救出するかを後から選択することができたはずだった。左

上に向かったが、この判断は微妙だった。白 76 までで隅は黒 81 に押さえられるとまだ手残り、黒は中央が厚くなってしまった。黒 77 は打たれてみるとなるほどという一手。中央が黒模様になってきたので消す意味でも白 78 と上辺に高く打った。黒 81 に対して、白 82 と下に行くようでは白苦しい。黒 83 から右上は一手ヨセコウ。黒 97 のツケに対し、即解消したが黒 107 までで中央黒の模様が完成間近。白は 107 に渡っておくくらいが自然だが、勝負手として 108 のハネからチャンスを狙う。黒 117 は中央を更に厚くしながら上辺の白の切断を見た手。コスミで受けるくらいが普通だが、ここも勝負手で手抜きの白 118 のトビ。右下の黒の目を脅かしたい意思がある。黒は 121 までで上辺を分断。白は 126 の押さえで根拠を奪い、右下に全てを賭ける。白 140 に黒 141 と繋いだことで可能性が出てきた。白 148 までで分断に成功。黒 149 のハネからコウになり、コウダテで黒 153 を打たれたが、右辺の黒は取り切れていると判断し（このとき既に秒読みに入っており、雰囲気判断ではあるが)、コウを解消。ここで黒 157 が粘りのある手で、無条件で黒を取る変化はないようだ。ここを押さえずに曲がりならこちらが取り番の本コウになるのが分かったので、時間に追われながら押さえを選択。結果として相手の取り番のコウになってしまい、そばコウから黒 185 までで大石が取られてしまい、その後コウダテで打った手から白 186 までで下辺の黒を取ったが、形勢はもう動かない。主将戦は 22 目半で黒番星合の勝ちとなった。他のメンバーも早稲田大学の高い壁に阻まれ、0－5 で完敗という結果となり、この日の対戦は終了した。

そして迎えた最終日。初戦の相手は関西地区代表立命館大学。自分が出場してから一度も勝ち星を挙げられていない大学なので、なんとか一勝を、という思いで全員が試合に臨んだ。主将戦は東北大・外柳 VS 立命館大・西村。外柳の白番、序盤で低位に押し付けられ、無理をして不利な戦いを挑んで劣勢になり、敗北した。三将戦、四将戦、五将戦も中盤までで力で押し切られたような内容で中押し負けとなった。残すは副将戦、東北大・五十嵐 VS 立命館大・平松の一戦。大きな戦いはなく進行していき、ヨセ勝負となった。とても細かい勝負だったが、最後のダメを詰めたのは白だった。黒番の東北大・五十嵐が半目差で勝利し、大きな一勝をあげた。

そしていよいよ最終戦。対戦相手は北海道大学。現在、東北大は 3 勝 3 敗。他に九州大学も 3 勝 3 敗なので、最終戦では個人勝ち星をできるだけ稼いだ上で勝利する必要がある。北海道大学のオーダーは補欠の保坂、吉川のエース 2 人をどこに出してくるのかが読みづらい補欠爆撃型のオーダーであったが、今年の東北大は補欠を使わない組み方をしているので、こういうオーダーの読み合いに付き合わずにそれぞれのコンディションを高めることに時間を使うことができる。結果、北海道大の補欠の 2 人は、三将、四将に投入してきた。主将戦は、東北大・外柳ＶＳ北海道大・新沼。北海道大は主将戦に 7 戦中 5 戦補欠を入れていたので、対戦相手の新沼は実力的にはおそらく相手の 6,7 番手だと予想される。危なげなく黒 32 目半でまずは東北大が 1 勝。副将戦は東北大・五十嵐ＶＳ北海道大・黒畑。白番の五十嵐は弱い石を作らないように手厚く進めていき、しっかりとヨセ

きって１目半で勝利、これで東北大の２勝となった。三将戦は東北大・及川ＶＳ北海道大・保坂のエース対決。序盤から激しい戦いとなったが、黒番の及川の厚みが働く展開となり、下辺に白石を飲み込んだ大きな地がまとまり、優勢を築くとそのまま黒９目半で東北大が３勝目を手にした。この時点で北海道大学への勝利は決まったが、裏で行われていた九州大学VS金沢大学の対決は九州大が３−２で勝利しており、勝ち点4、勝数17という成績であった。東北大のこの時点で勝ち点4、勝数17と並んでいたが、直接対決で九州大に敗北しているため、このままでは4位になってしまう。東北大が3位入賞を果たすためには勝数があと１つ必要。つまり、残りの四将戦、五将戦のうちどちらかが勝つ必要がある。四将戦は東北大・千田VS北海道大・吉川。北海道大の吉川は補欠として7戦全てに出場しており、北海道大のナンバー2の存在といっていいだろう。序盤はおとなしい立ち上がりだったが、上辺で戦いが勃発。黒の厚い壁に押し付けられる白番の千田にとっては苦しい展開。白は分断された石をそれぞれでなんとか治まったが、代償として黒地が固まり、白石4目が取られる形で黒の弱い石も収まり、後はヨセ合いとなったが一歩届かず、黒の5目半勝ちとなった。そして、最後の五将戦は東北大・斎藤VS北海道大・田村の対局。北海道大・田村は仙台の高校に通っており、東北大にも何度も遊びきており、マルクスの愛称で親しまれていた。試合は白番の北海道大・田村が右下で黒の小目に小ゲイマでかかったまま手抜きしていたところを隅にツケ、さばきに来たところで黒番の斎藤が上手く根拠を奪い重くして全体を攻めながら、上辺の白模様に雪崩れ込んでいくことに成功した。中央の黒が2眼生きを迫られる少し苦しい形になったが、確定地の差が大きく、その差が縮まらないまま終局を迎え、黒番の東北大・斎藤が10目半で勝利を収めた。

これにより、東北大の勝数は18になり、九州大を抜いて3位に入賞した。あと勝数が1でも少なければ4位になっていたので、チーム全員でつかんだ3位だといえるだろう。優勝争いは早稲田大と立命館大との対決で早稲田大が勝利し、2年ぶり15回目の優勝を決めた。この関東、関西代表の2校とはまだまだ力の差があると感じたので、この2校を脅かせるような存在になることを後輩たちに託したいと思う。立命館大を含んで5勝2敗という成績を上げた五十嵐は連盟賞を獲得した。スーツの着こなしが良いという理由で連盟賞を頂いた自分としては、しっかりと実力で連盟賞を獲得したのは大変立派なことだと思う。今後の東北大囲碁部のさらなる発展と健闘を祈って、私にとっておそらく最後になるであろう寂韻の記事を締めようと思う。最後までご拝読いただき誠にありがとうございました。

（文責：外柳開理）

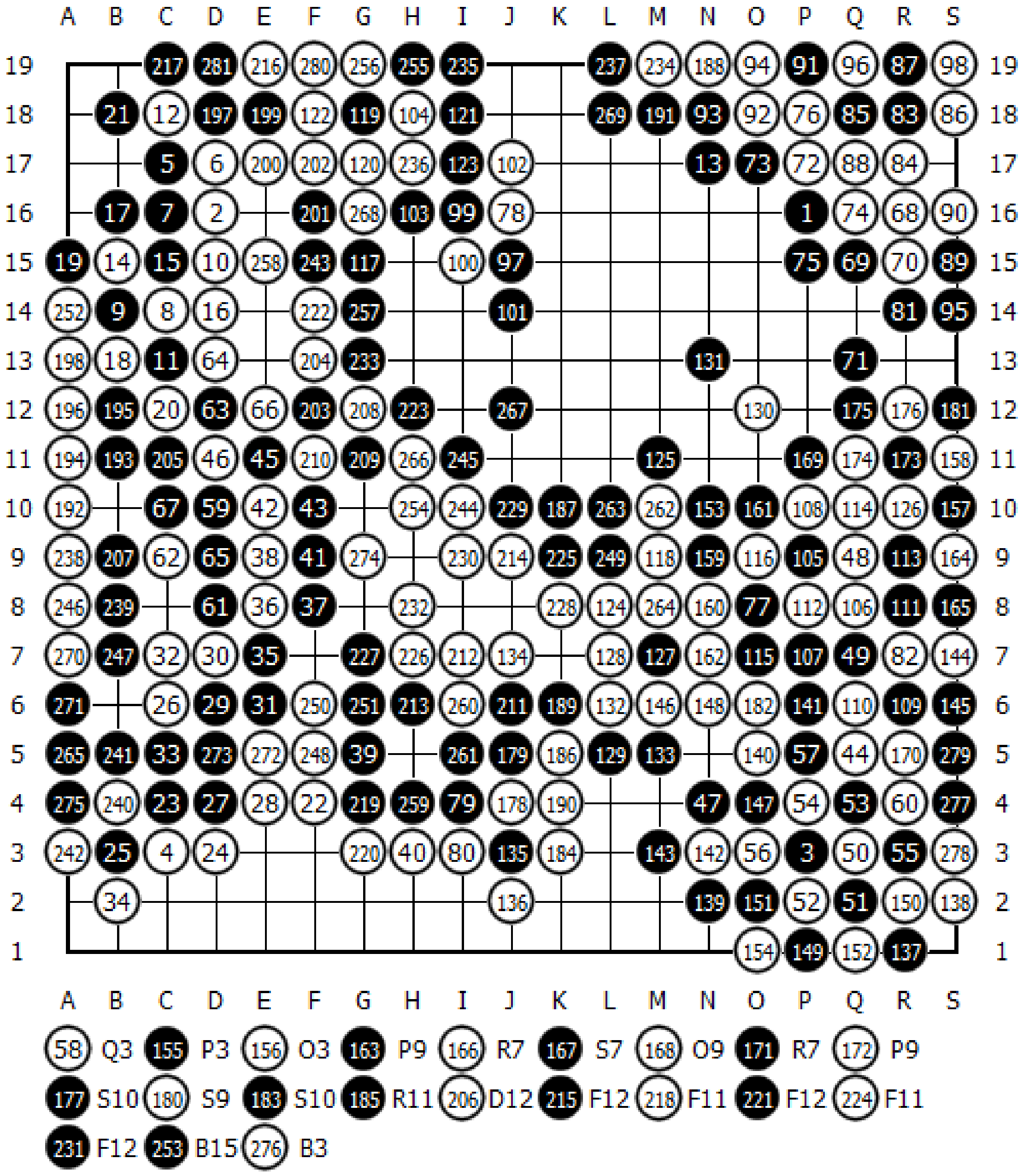
2018 年度　大学選手権　VS 早稲田大学　主将戦

黒　星合　真吾

白　外柳　開理

結果　白 22.5 目半勝ち

総譜(1~281)



2018 年度　東北六県大会

去る 2018 年 6 月 23、24 日、私五十嵐は山形市で開催された東北六県大会に出場して参りました。本大会は、東北各県の県大会で決定された代表三名による団体対抗戦であり、東北各地の新聞社様主催の下、毎年盛大に開催されています。

本大会に先立つ宮城県大会の結果、宮城県代表は私五十嵐が主将、アマ強豪の佐伯さんが副将、先輩の齋藤純之介さんが三将として本大会に出場することになりました。

前年度はチームとして成績が振るわなかったので、今回はチームに貢献できるようにと気合を入れて臨みました。

・1 回戦　vs.秋田

いきなり優勝候補と激突することになりました。しかし今回の我々の強いところは副将が安定感抜群の佐伯さんであるという点です。このため今大会は主将か三将のどっちかが勝てばチームは大体勝つだろうという、東北大学的にプレッシャーのかかる展開が続くことになります。

さて私の初戦の相手は高橋さん。以前にも対局させていただきましたが、その際はチャンスなく敗れてしまいました。格上の相手ですが、さあどれだけやれるか。

握って私の白番。序盤でやや先行されるものの、厚く構えてチャンスをうかがいます。黒が殴り込みをかけてきたところでねじり合いとなり、いい勝負のワカレで終盤戦へ突入。細かいままヨセが続く中、白が勝つ手順があったらしいのですが、それを逃してしまい、結果は半目負け。大魚を逃しました。チームも 1-2 で敗戦となってしましました。

・2 回戦　vs.山形

ホストである山形チームとの対戦です。山形チームは毎回どのチームよりも気合が入っている印象を受けます。今回はユニフォームを着用しての参戦です。

私の対戦相手は船山さんという方で、本大会前まで存じ上げませんでしたが、強豪ひしめく山形県の主将ということで、厳しい戦いが予想されました。

握って私の白番。序盤で白がややポイントを挙げ、その後もきわどいせめぎ合いが続きますが、最後は何とか中押し勝ちを収めました。内容的にも満足いく結果となりました。チームも 2-1 で勝利することができました。

・懇親会

1 日目の日程が終了すると懇親会が行われます。大会関係者の方々と親睦を深めることができる点で非常に有意義で、ここでしか聞けないようなお話もたくさんしていただきました。また、とんでもなく食事が豪華で、普段はとても手が出せない食材がたくさん…。お腹いっぱいいただきました。

東北六県大会

・3回戦　vs.福島
　本大会でもっとも選手のコンディションが心配される3回戦。対局開始は8:00と、考えるのも恐ろしい日程です。前日深夜までがっつりW杯を観戦していた私ですが、このせいで負けたといわれないようにしなくてはなりません（佐伯さんも純之介さんも見てたらしい。強者多いなー）。
　私の対戦相手は本名さん。福島県囲碁界を長年牽引されている、いわばレジェンド的存在の方です。
　握って私の白番。序盤から実利で先行して私好みの展開になったと思っていたのですが、黒の勢力圏で少しやり損ねてしまいました。二転三転ののち、猛烈に細かい碁になりましたが、相手のミスもありなんとか2目半残すことができました。チームも2-1で勝利することができました。

・4回戦　vs.青森
　前年度の優勝チームとの対戦です。そして私の対戦相手は全国クラスの強豪、古川さん。この前年のアマ本因坊戦では準優勝されており、対局できるだけでも光栄ですが、打つからには勝つつもりで臨みました。
　本大会最初の黒番を引き当てた私は、序盤でこそ一本取られたものの、しっかり食らいついて中盤までは形勢は割といい勝負で推移します。しかしコウをめぐる戦いの中秒に追われ判断を誤り、最後は盤面持碁の大差となってしまいました。いい勝負ができていただけにかなり悔しかったことをよく覚えています。一方チームはというと、自分以外のお二人が勝利し、2-1という結果になりました。

・5回戦　vs.岩手
　さていよいよ最終戦。ここまでの激戦と少ない睡眠時間の影響で、体はもうボロボロです。対戦相手は江村さん。岩手県内では敵なしという印象のある強豪です。
　握って私の黒番。開始早々かなり優勢になったのですが、ここで私の悪癖が出てしまいました。白をつぶしに行くような手を連発した結果、逆を突かれてしまい、逆転負け。どうやら無難な手を選んでいて問題なかったようです。結果、チームとしても1-2の負けとなり、最後にして最大の戦犯をかますこととなってしまいました。

　チームの最終結果は3位となりました（佐伯さん、全勝してくださったのに…）。私個人としては、今回の大会は、各県の文字通りのトップとこれだけ対戦出来たという点で非常に有意義な大会となりました。また、格上だと思っていた方々とも案外戦えることがわかった点でも収穫でした。今後も機会があれば是非参加したいと思います。
（備考：五十嵐、翌年の県大会を寝坊のため本大会に出場できず）

（文責：五十嵐壮太）

2018 年度　国際アマチュア・ペア碁選手権大会東北予選

2018 年 9 月 16 日(日)、本町囲碁クラブにて第 29 回国際アマチュア・ペア碁選手権大会東北予選に私と座主悠香さんとのペアで出場しました。この大会についての振り返りを綴っていこうと思います。正直２年も前のことなので、忘れてしまった部分も多いのですが頑張って思い出しながら書いていくこととします。

この大会の試合について書く前にまずこの大会に出ることになった経緯について。確か、記憶が正しければ大会 10 日くらい前のことだったと思います。突然座主さんから一通のラインが。「9 月 16 日暇—？」と。何のことかわからないですがとりあえず暇ですと返事をすると、「ペア碁に出ないか？」という誘いでした。ペア碁はそれまでほとんど打ったことがなかったのですが、面白そうなので快諾してこのペア碁の大会に出ることが決定しました。さて、ペア碁の大会に出場することになったわけですが、お互いにペア碁の経験はほとんどなかったので練習しておこうという話になって、部室に集まったわけです。ところが肝心な練習相手がいない（笑)。大学の夏休みということもあり、いい勝負ができそうな対戦相手が見つからず、結局その日は序盤の構想を話し合うだけで終わってしまいました。

練習はそれっきりすることができず大会当日を迎えます。うまく連携して碁を打てるだろうかと一抹の不安を抱えながら会場に向かいます。結構ギリギリに会場について座主さんに申し訳ないなーと思っていたら、座主さんもまだ着いていない（汗)。ルール説明も終わり開会式も終盤になったところでようやく座主さんが到着しました。ほっと一安心です。直前にルールの確認ぐらいはしておきたかったのですが、そのまま一回戦が始まります。

さあ一回線。お相手は初段と級位者のペア。黒番だったので予め用意していた布石になるかと思っていたら、想定どおりにいかず（どうやら私が間違えたみたいです)。しかし、こちらの模様に入ってきた石を取ることに成功し、こちらの勝勢。これで一勝はできたかなと心の中で喜んでいたのですが、ここで新たな問題が。気がつくと時間があと 3 分くらいしかないのです。対局時計を押すのは私の担当でしたので、途中からは座主さんが打つタイミングに神経を全集中させて打っていました（笑)。本当にギリギリになってもしかしたら座主さんは秒読みがあると思っているのではと（実際は 40 分切れ負け）冷や冷やしましたが、無事対局が終わり、何とか勝ち。後から聞くと普通に 40 分切れ負けなのは分かっていたみたいで焦っていたのは私だけでした。

一回戦の反省を踏まえての２回戦。お相手はこちらより格上です。序盤相手が広く開きすぎたのをなぜか私がヒヨってしまい、打ち込まず (後から思えば勝つチャンスはここしかなかったように思います)。相手のスキを咎めることができずに進み、徐々に相手のペースに。結局、相手の自力が勝りその後盛り返せず負け。二人の連携の差というよりは個々の力が相手の方が一枚上手という感じでした。

２回戦敗退という残念な結果とはなったものの、初めてのペア碁大会にしては上出来かなとも思います。

この大会を通じて、ペア碁ならではの楽しみを感じることができ、とても良い経験となりました。もし、機会があればまたこの大会に出てさらに良い結果を残せればと思います。

（文責：山村聡太郎）

2019 年度 全日本学生本因坊決定戦

令和元年 8 月 2・3 日の 2 日間にかけて、第 63 回全日本学生本因坊決定戦が日本棋院・東京本院で開催されました。学生十傑戦とは異なり、前夜祭などもなく会場に到着して間もなく一回戦が開始となったので、今回は自分の 1 回戦目の棋譜について主に書いていこうと思います。

1 回戦目はいきなり全国大会上位常連の中島さんでした。中島さんは自分と同じ埼玉県出身で年齢も同じであり、小学生のときに同じ道場に通っていたり、高校の大会でもよく対戦する機会があったのでお互いに顔見知りの仲です。

では 1 回戦の対局を振り返ろうと思います。自分が白番です。中島さんは地に辛いイメージがあったので、白 20 のカカリに黒 21 と上にツケて来たのは意外でした。黒 31 と既に下辺に地模様が出来そうであるので、白 32 と消しに行きました。これに下から受けるのは白の注文通りであるので、黒 33 と上からボウシして反撃です。初めは白 34 と打てば死ぬことはないのでいいだろうと思っていましたが、黒 35 といざツメられてみると案外白が窮屈なので困りました。実戦白 36 はあまり打ちたくはなかったのですが、強気に打って反撃されたら上手くサバく図が見つからなかったので仕方なかったと思います。実戦黒 37 とノゾかれ、これに受けては形が悪く気合が悪いと思い受けずに白 38 と打ち、白 40 まで 1 段落です。黒 43 と打たれ、この時点では黒が好調のようです。これに構っていては白が防戦一方になると考え、一旦白 44 から 50 まで地を取ろうと打ったのですが、これが良くなかったように感じます。黒が一子をポン抜いたことにより黒が非常に厚くなり、中央の白 4 子がかなり攻められてしまう格好になってしまいました。黒 53 といよいよ白 4 子を攻めようとしてきたので、白５４から左上の黒を切って黒の石を攻めつつ、中央の白 4 子をシノごうと考えていたのですが、これに黒 57 から黒 63 と黒 15 の一子を捨てたのが中島さんの冷静な形勢判断でした。白は左辺に 60 目程度の巨大な地が出来ましたが、黒は白の 4 子を丸ごと飲み込んでしまえば白が大変な形勢です。白 66 も良くなかったと思います。白 66 に黒 67 とカケられ、黒の断点の補強と模様の拡大の一石二鳥の手を打たれてしまいました。白は黒 67 に打っておくべきだったと思います。その後は上手く中央をまとめられてしまい大差となってしまい投了となりました。最後に中央の白を動き出すなどもうひと暴れしてマギレを求めるべきだったと思います。

（文責：谷川大知）

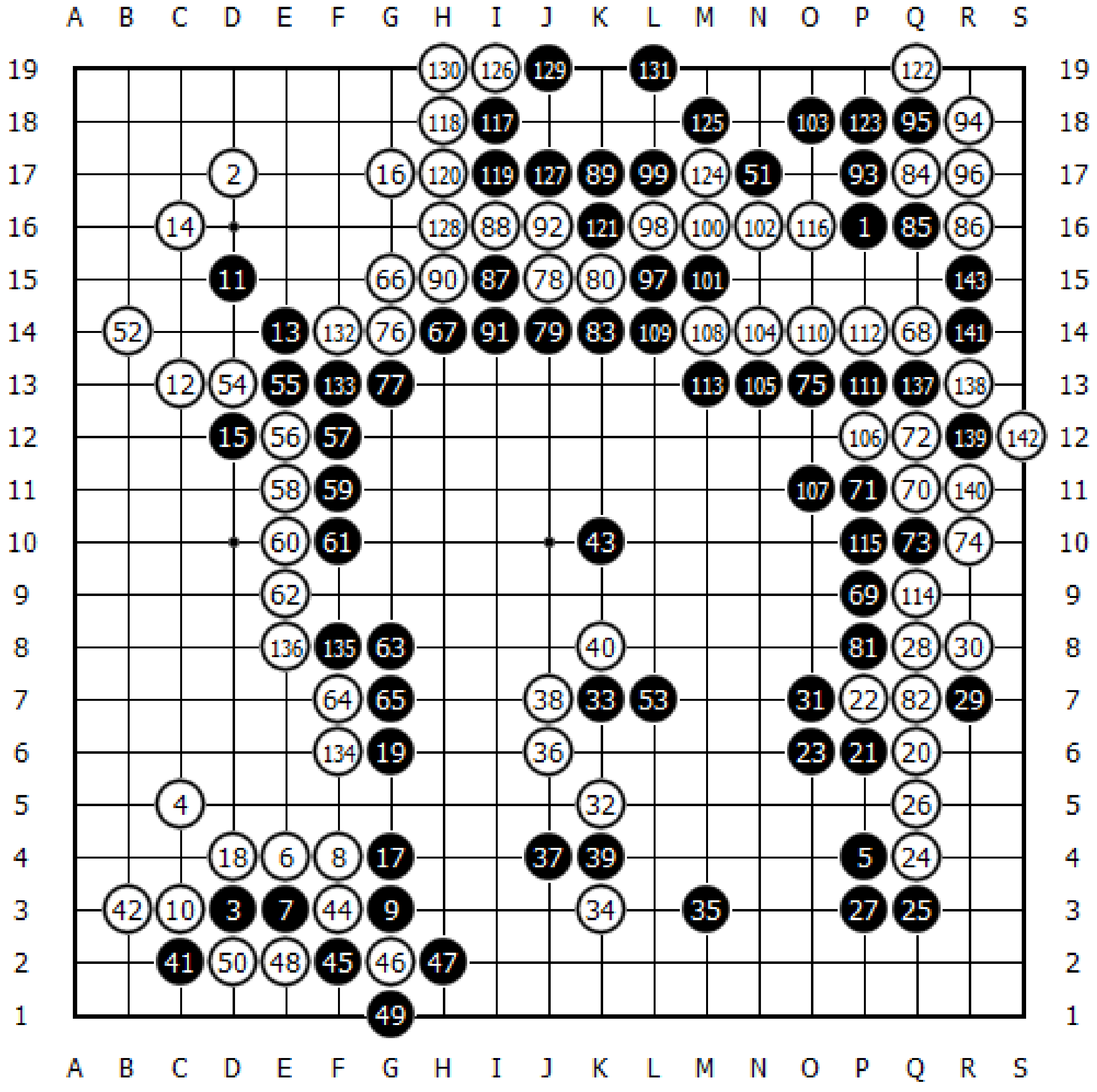
2019 年度　学生本因坊全国大会　1 回戦

黒　中島　光貴

白　谷川　大知

結果　黒中押し勝ち

総譜(1~143)



2019 年度　全日本女子学生本因坊決定戦

ここでは 2019 年 6 月に行われた女子学生本因坊戦の東北予選、そして 8 月に行われた本戦について私の体験をお話していきたいと思います。

まず 6 月に行われた東北大会では、女子の出場者が 5 名と例年より多く強い相手も複数いました。皆全国大会出場に向け気合が入っており、気の抜けない戦いが続きました。1 回戦は当時東北大学 3 年の座主さんとの試合でした。座主さんは一個上の先輩で入学当初からよく打ってもらっており、力が強く石を取るのが得意な方だと知っていたので、死活には十分に注意をしながら打ち進めました。途中良い手を打たれ悩んだ時間もありましたが、負けじと緩まずに打ち続けたことで幸運にも白星を挙げることが出来ました。座主さんとの試合は私の中でかなりの大一番だったので勝つことが出来とてもほっとしました。その後 2 回戦、3 回戦と勝ち星を挙げ、最終試合は東北学院大学の畑萌ちゃんとの試合でした。彼女とは高校時代から大会でよく戦っており、私にとっては仲のいい後輩、かつなかなか勝てないが勝ちたい相手でもあります。今回の対局では序盤から端正な碁を打たれ、なかなか抜け目を見つけ出すことが出来ず、結果敗れてしまいました。高校時代最後に彼女と戦って勝ってから久々の対局だったので、リベンジを果たされたようで悔しくなりましたが、私ももっと力をつけて今度は勝てるように頑張ろうと思いました。最終的には東北大会で 2 位に入ることが出来、全国大会出場が決まりました。2 年連続で全国大会に出場できることをとても嬉しく思うとともに、今年こそは東北に一勝をもたらしたい！と強く思いました。

8 月、全国大会の日が訪れました。会場で目にする選手たちは誰もかもとても強そうに見えました。猛者が集まるこの雰囲気は 2 回目の出場でもなかなか慣れません。そんな中で、高校時代全国大会で戦った友達に再会できるなど嬉しいこともありました。その後、本年度は挨拶を済ませ早速対局に入りました。初日は 1 回戦と 2 回戦を行い、2 日目に 3 回戦と決勝トーナメントを行うという日程です。1 回戦の相手は関西大学の神戸弥帆さん。対局内容は詳しくは覚えていませんが、相手を上手く攻めることが出来、勝つことが出来ました。2 回戦の相手は立命館大学の濱崎明日香さん。途中まではいい勝負でしたが、カタツキから相手の地を消しに行こうとしたところ逆にその石が攻められてしまうという展開となり、その後上手くさばくことが出来ず石を取られ無念の投了となりました。反省点の多い一局でした。3 局目、私の対戦相手は残念なことに現れず不戦勝となりました。最後に対局できなかったのはとても残念でしたが、1 日目強い相手と沢山打つことが出来、念願の一勝を果たすことが出来たので良かったと思います。また、同じ東北代表の畑萌ちゃんも一勝することが出来ておりそれもまた嬉しかったです。

女子学生本因坊戦を通して、いろんな人と対局し検討を重ねたり、交流したりととてもいい経験をさせていただきました。大会の開催にご尽力いただいたスポンサーや全日本学生囲碁連盟の皆様、東北学生囲碁連盟の方々には心から感謝申し上げます。これからも日々努力を続けて良い結果を残せるよう頑張りたいです。　（文責：山崎真瞳子）

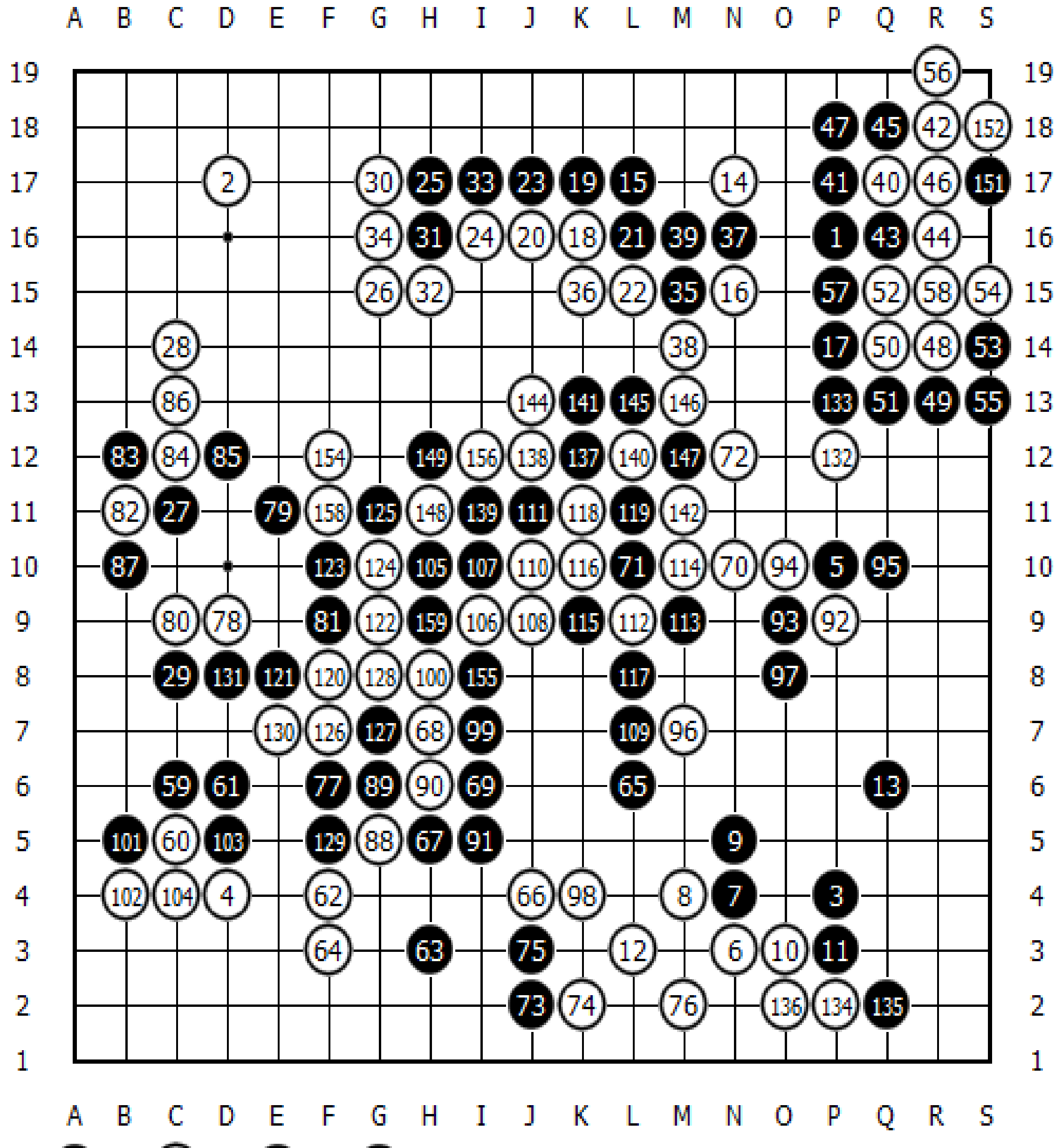
2019 年度　女子学生本因坊戦　二回戦

黒　山崎　真瞳子

白　濱崎　明日佳

結果　白中押し勝ち

総譜(1~159)



143 L9　150 L12　153 M12　157 H11

2019 年度 学生十傑戦

令和元年 11 月 15 日から 17 日の 3 日間にかけて、第 56 回全日本学生囲碁十傑戦が日本棋院京都本部・藤田塾で開催されました。今回はその感想について書いていこうと思います。

まず東北地区の予選ですが、５勝１敗で SOS の差で優勝し千田さん（兄）と及川さんと共に代表になることができましたが、千田さんと及川さんの二人に負けて（千田さんに１目半負け・及川さんには時間切れで勝ったが形勢は負け）の４勝２敗でしたので実質３位でした。ですから、この調子で全国の強敵と対戦したらボコボコにされるのではと少し不安でした。とりあえず１回戦突破を目指して胸を借りるつもりで頑張りました。

では全国大会での話を具体的にしていこうかと思います。十傑戦は 3 日間にかけての開催ですが、1 日目は前夜祭及びトーナメントの組み合わせの抽選でした。当日の昼過ぎ頃に京都行きの新幹線で１人で現地に乗り込み、時間まで清水寺など適当に京都観光をしていました。前夜祭は京都文化センターで開催され、ビュッフェ形式の料理やビールなどが振舞われていました。高校時代に対戦した仲間たちも多数代表になっていたため、久々の再会ということや、お酒が入り話が盛り上がりました。前夜祭が始まりしばらく経った後、トーナメントの組み合わせの抽選が行われました。くじ引きの結果、1 回戦目は前年度優勝の津田さんに決まりました。実は津田さんと私は同じ埼玉県出身であり、同じ高校の１つ上の先輩で高校時代に団体戦に一緒に出たことがあります。数々の伝説（？）を作り上げた東北大 OB である早下さんも、昔小学生のときに津田さんと団体戦に一緒に出たことがあるなどと、色々と話題が尽きない相手です。あと十傑戦の前に開催されていた全日本学生本因坊戦や全日本学生最強位戦のどちらとも一回戦の相手が同じ埼玉出身の中島さんや山本さんであったりしたことで、「今回もまた埼玉か…」ってなりました。正直全国大会なので全国の人と打ってみたかった感はありました。しかし相手が大学囲碁界でもトップクラスであろう津田さんとこうして久々にガチンコ勝負できるとなると燃えてきましたね。

２日目ですが、なんとか寝坊せずに会場である藤田塾に到着することができました。対局の内容は次頁に記します。結果的には 1 回戦目で負けてしまいましたが、自分なりに善戦できたと思うのでよかったと思います。でも次は結果残したいですね。東北地区代表は 3 人とも 1 回戦負けとなってしまったため、同じ部屋で泊まっていた北海道地区代表の 2 人を合わせた計 5 人で午後から前日に引き続き京都観光をしました。金閣や銀閣、伏見稲荷神社などの観光名所に、カップルでも外国人観光客でもない男 5 人でいく光景はとてもシュールだったと思います（笑）伏見稲荷神社の千本鳥居を回り歩いたのはいい運動になりました。

3 日目は準決勝と 5~10 位決定戦が行われていましたが、もう少し力を付けないと 3 日目に残れそうもないのでもっと囲碁やらないといけないなと思います。大学の課題などもあったので、少し京都観光してから仙台に戻りました。

では、1 回戦の対局を振り返ろうと思います。自分が白番です。白 16（手目）と黒 3 子を挟んだときに黒 17 と押され悩まされました。実戦は何を勘違いしたのか、13・15 手目の黒 2 子を無条件で取れると錯覚し、いきなり白 20 の一子をポン抜かれてはまずい展開になってしまったと思います。黒 21 のときに白 6 の左に打ち一子を取らせて形を整えたかったのですが､抜いた時にすぐコウに当てるのは白 12 の下に切られてまずいです。そのため黒 17 と押されたときに一旦黒 17 の下にはねてから実戦のように打つべきでした。実戦はコウ材もないので一旦大石を安定させるため白３０と補強しました。実戦黒 41 の時点でかなり苦しい形勢であると思っていたため､上辺の黒への打ち込みをコウ材にしつつ白 42 からコウを仕掛けました。実戦黒 53 と上辺の白 5 子が飲み込まれましたが､白 54 とコウを解消した時点ではポイントを挙げたかなと思います。黒 71 と白 72 の交換は白が辛いですが、黒 73 と上辺に手を入れたのでありがたかったです。そしていよいよ白 80 と上辺を動き出しました。白 92 までと白 3 子を担ぎ出し、この時点では全局的に白が薄いですが、地合いでは悪くないと思っていました。白 96 から白 100 と左辺のポン抜いた黒 5 子を取ったのは大きいとは思いますが、黒が厚くなりいよいよ黒 101 と置かれて勝負を仕掛けられました。白 102 からは一直線で、黒 109 と切られて外が薄いのでちょっとやりすぎだったかなと思ったのですが、意外にも黒 111 とノゾキが効かず、白 112 と打てば黒が参っています。
４-D にホウリ込んでからのシチョウは上辺の白がシチョウアタリになっています。ここで相手の津田さんがボヤいていたので何か大きな勘違いのあったのかなと思いました。しかしさすがは前年度優勝の津田さんで、黒 113 と打たれ、シチョウアタリの関係で白 114 で黒 113 の左にハネ返すことが出来ず、白は 114、116 と左辺を突き破り、黒は 113、115 と上辺の白を飲み込みました。白 114 のときに黒はこれに受けてしまうとホウリ込めなくなるので受けられません。結果見応えある面白いフリカワリとなり、形勢もほぼ五分となりました。黒は 117 から白 132 まで先手でシボリを決めて黒 133 に回り、白 134 と黒の形を崩す急所に迫りました。黒 135 と抵抗したときの白 136 が失着だったと思います。単にハネ出して置く方が切る味も残るのでよかったと思います。この辺りでお互いに秒読みに入り、その後大ヨセに入り手数が進んでいきました。白 190 と上辺のヨセを先手で決めに行った訳ですが、黒 191 と切ったときの白 192 が軽率で結果的に敗着だったと思います。黒 193 から 195 と下がった後にダメが詰まっていないため黒 197 頑張れるのが大きく、ここではっきり 1 目半程度損をしました。正しくは白 192 で 19-M に打っておけば黒は 18-J と打つよりありませんでした。結果残りの小ヨセを打ち、半目負けに終わってしまいました。負けたことは悔しいですが、強敵を相手にここ

まで肉薄することはできたのはよかったと思います。自信を付けて次の全国大会にリベンジしたいと思います。

（文責：谷川大知）

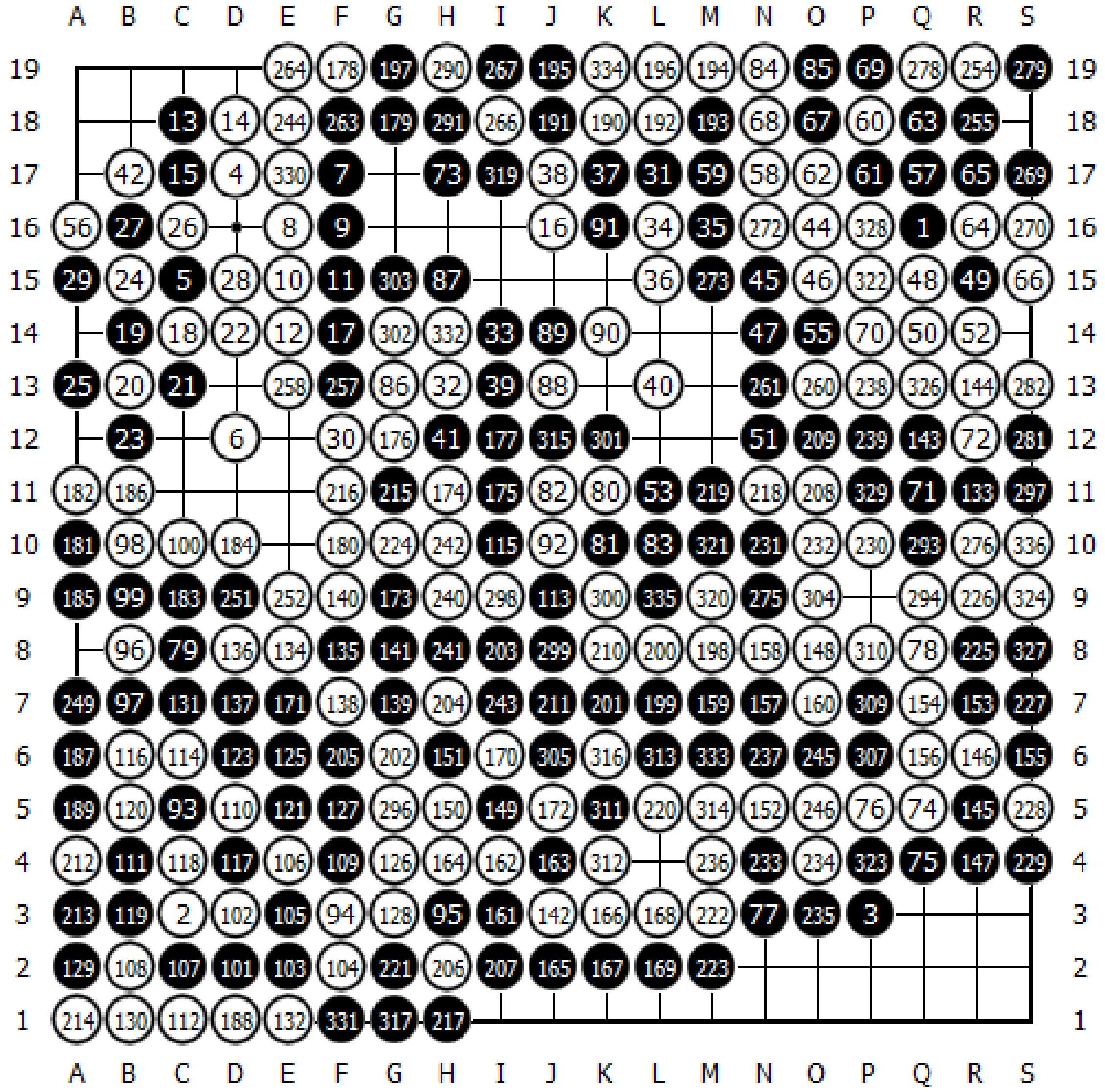
2019 年度　学生十傑全国大会　1 回戦

黒　津田　裕生

白　谷川　大知

結果　黒半目勝ち

総譜(1~336)



43 C15　54 B15　122 D4　124 C5　247 H6　248 A4　250 H7　253 H6　256 H7

259 H6　262 H7　265 H6　268 H7　271 H6　274 H7　277 H6　280 H7　283 H6

284 Q19　285 R19　286 H7　287 B4　288 A3　289 H6　292 H7　295 H6　306 H7

308 H6　318 K5　325 S5

2019 年度　学生王座戦

2019 年の学生王座戦は東北予選が 9 月 28 日、インターネット本戦が 12 月 1 日に行われそれを勝ち抜くと選手権直前の 12 月 20〜22 日にリアル本戦という日程で開催されました。

もともとは東北地区から代表が 6 人出られるため、負け残りトーナメントで代表を決めていたのですが、2018 年から代表の人数が変更され東北地区からは 2 人の代表となり、代表が決まるまでの勝ち抜きトーナメントでの選抜戦となっています。

自分はこれまで参加した過去 2 回とも塚本さんという偉大な先輩に負けていたので、今度こそはリベンジをと思っていたのですが、なぜか留年もせずに卒業してしまいリベンジを果たすことはできませんでした。まずはここで一敗。

とは言いつつ、自分も普通に卒業できてしまってもう社会人として働いてるので人のことは言えないのですが。くそっ

そんなわけで、僕が今これを書いてるのは 2020 年の 12 月頭なので本当に覚えてない、微かな記憶を無理やり引きずり出してるので正確じゃないかもしれないです。てかもうネット本戦からも 1 年経ってるのか､､､

勝手に逸れた話を戻します。まずは東北予選。代表枠が 2 人なので、本来なら及川、五十嵐、谷川など強い人が全員出たら本当に厳しい戦いなのですが、彼らは出ませんでした。たしかにネットでやる大会なので他の学本とか十傑に比べるとやる気が起きないのは分からなくはないのですが､､､これを読んでいただいている OB の皆さんにシメてもらいたいと思います。

東北予選の参加人数は 5 人。大会への参加人数の減少は全国でも問題になっているのですが、本当にこのままだと大会の存続にも関わるのでチャンスがある限りは多くの人に出てもらいたい。数少ない全国大会につながる大会ですからね。

というわけで 5 人で 2 つの代表枠を争うことになったのですが、だからといって楽勝ではない。1 回勝てば代表というところに入りましたが、その相手は後輩の山村。実は彼、僕にとって因縁の相手でして、前年の選抜リーグでは順位決定戦も含めて 3 連敗していました。そんな山村相手に結果はどうだったかというと…なんとか勝ち。形勢は普通に悪く苦しい碁でしたが、突然相手がポカリ完全に優勢になって中押し勝ちでした。山村の特性のバグが発動しました。

まあ内容はともあれ、何とか代表になることができました。もう 1 人の代表枠は岩手大の吉原くん。強敵の後藤さん（福島大学）を破っての代表となりました。という感じで、以上が東北予選です。

それからしばらくして、インターネット本戦。2ヶ月以上あきましたが、その間に選抜リーグや十傑な怒涛の日々を過ごしていました。年末の選手権に向けて緊張感も高まってきた頃、対戦表が発表されました。

王座戦のインターネット本戦はダブルイリミネーション方式という、2勝勝ち抜け2敗失格の変則トーナメント戦です。僕の初戦の相手は早稲田の藤原彰子ちゃん。早稲田のレギュラーで女流アマや女学など、数々のタイトルを獲得してきた強敵です。世界学生王座の大会運営（彼女は選手）で一緒になってから、割と仲はいい（と思ってる）のですが打つのは初めてだったので楽しみにしていました。

結果は…あまり覚えていないのですが、完敗。負けたことよりも、そのあとお互いに操作をミスって彰子ちゃんと検討できなかったことがとてもショックでした。その後の選手権で再会した時にお互いに第一声で謝って、お互いに「えっ？」ってなったのはなんか面白かったです。

気を取り直して、続く2回戦。相手は九州の連盟幹事をしていて交流も多い中島維吹（漢字あってるかな）。負けたら終わりの一局で、ヨセで追い上げられたけど何とか勝つことができました。本当に内容は覚えてないので中身のない文章になります。今更ですがすみません。

1勝1敗で迎えた3回戦。相手は立命館のレギュラーの今野さん。これに勝てばリアル本戦進出、負けると敗退という一局です。この時もう17時くらいでお互い疲れて脳が働いていなかったこともあり、最初相手をツブしかけたのですが、結局盛り返されて全然足りず投了。リアル本戦出場は叶いませんでした。

結果は残念でしたが、打ってみたかった人や仲いい人と全国大会という場で対戦できたのはめちゃくちゃ楽しかったし、すごく刺激になりました。また同じ代表の吉原くんが立命館のレギュラーに勝ってくれたので、東北勢としても爪痕が残せたのではと思います。

ネット碁ならではの難しさは確かにあると思いますが、やはり他では味わえない経験や刺激があるので、後輩にはどんどん参加してほしいです。クリックミスとかでジャイアントキリングも全然あり得ますしね（笑）

2020 年度の学生王座は新型コロナの影響で残念ながら中止となってしまいましたが、2021 年以降また開催された時は後輩みんな奮って参加してほしいと思います。元東北地区連盟幹事としても、東北の参加人数が多いと嬉しいです。

だいぶ長くなってしまいましたが、これで書き終えて仕事に戻ろうと思います。（期限内に書けなさすぎて仕事中に書いてた）文章として特に面白く出来なかったのが残念です。読んでいただきありがとうございました。しごといやだ！！！！！！！！！

（文責：齋藤純之介）

2019 年度　国際アマチュア・ペア碁選手権大会東北予選

2019 年 9 月 29 日、国際アマチュア・ペア碁選手権大会の東北地区予選が本町囲碁倶楽部にて開催され、私は前年に引き続き後輩の山崎さんとペアを組んで出場しました。私個人としては 3 年連続の出場で、準優勝、ベスト 4（いずれも優勝ペアに負け）と結構惜しいところまで行っていたので、今年こそは全国行ってみたいなーと密かに意気込んでいました。対戦表を見るまでは…。

当日、受付を済ませて参加者一覧を見てびっくり。まず、あの、あの平岡さんが出場されている…ペアの奥さんも六段の腕前ということで、もうこの時点で「全国」という目標は風のように消え去りました。さらには、個人戦全国優勝経験者の瀧澤雄太さんもなぜか、本当になぜか東北地区で出場されていて、そのうえ学生タイトル経験者の太田先生や齋藤志生さんも参加。現役の東北大囲碁部からは私たち以外にも、青柳さんが妹さんとペアで、また千田(兄)さんと座主さんも出場しました。東北地区予選史上最もハイレベルな戦いだったのではないでしょうか。ここまで強い人ばかりだと、なんかもう、逆に楽しくなってきますよね。一般棋戦では学生最後の大会でもあったので、精一杯楽しむことにしました。

組み合わせ抽選をし、私たちは平岡さんがいらっしゃる方の山に。千田さん座主さんペアも同じ山にはいりました。太田先生のペア、志生さんペア、青柳さんのペアは瀧澤さんの方の山へ。

ここからは 1 戦ずつどういう碁だったかも交えながら振り返り、、、が本当はしたかったのですが…正直に何も覚えていません。申し訳ありません。これを書いているのが大会があったちょうど 1 年後くらいなのですが、碁の内容については本当に記憶が無い。なので、ここからはハイライトのように結果を報告するただの bot と化します。すみません。

1 回戦に無事勝利し、次の相手は平岡さんペアと千田兄・座主ペアの勝者となりました。千田兄・座主ペアとは大会で当たったらそれはそれでめちゃくちゃ楽しいので応援していましたが、善戦及ばず。でも途中までどっちが勝つかわからないとてもいい勝負だったので 2 人ともほんとすごいと思いました。（小並感）（語彙力）

そして迎えた 2 回戦、平岡さんペアとの対局。くじ運がよく、実はこれが準決勝でした。結果からいうと、完敗。序盤で私が悪手を何個も打ってしまい自滅のような感じでした（これはちゃんと覚えてる）。当然といえば当然の結果でしたが、内容がひどかったので悔しかったですね。でも平岡さんと打てる機会なんて滅多にないものですから、貴重な経験でした。~~奥さんに対してボヤきまくる平岡さんがとても印象的でした。~~

準決勝で破れ、昨年と同様 3 位決定戦にまわることとなりました。相手は太田先生。実は太田先生とペアを組む、仙台二高の大宮七虹ちゃんもかなりの実力者で、何回も高校で個人入賞しています。私もこの後 10 月に行われた十傑予選で負け……ああああああああああ！…すみません、取り乱しました。とにかく強いんです、2 人とも。この一局も完敗で結果

国際アマチュア・ペア碁選手権　東北大会

2 年連続の 4 位で入賞まであと一歩届きませんでした。残念。

決勝は平岡さんペアが瀧澤さんペアを下し、全国大会出場を決めました。入賞はできなかったものの、これだけ強い人たちが集まったなかで 4 位は健闘したと思います（くじのおかげでもありますが)。振り返ってみれば打ち上げも含めてすごく楽しかったですし、何より 2 回もこの勝負弱くてボヤキもうるさい自分とペアを組んで出場してくれた山崎真瞳子に感謝です。彼女もめちゃくちゃ強くなっていますし、何より 6 年間もあるので（医学部医学科！！）女学と女アマ、そして選抜リーグも頑張ってほしいです。てか後輩はみんな頑張ってほしい。応援してます。

余談になりますが私は今、社会人 1 年目で東京で働いています。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、大会が軒並み中止になったり、また現役の部員も大学へ行けずオンライン上でしか活動できていない状況です。楽しみにしていた OBOG 交流会も中止になってしまいました。囲碁から離れてみて、そして囲碁がなかなかできない状況になってみて、改めてあの部室で過ごした時間は本当に幸せだったんだなと実感しています。僕の囲碁部での 4 年間は正直、苦しいことのほうが圧倒的に多く、すべてが楽しかったなんてお世辞にも言えないものでした。でも今、暇さえあれば後輩と LINE などで連絡を取ったり、部室が恋しいと思うこともしばしばです。現役当時も囲碁部はめちゃくちゃ居心地が良くて、楽しいと思ってはいましたが、卒業した今になってより、かけがえのない時間だったんだと実感しています。結局何が言いたいのかわかんなくなってしまいましたが(笑)、囲碁部で過ごした 4 年間は今の自分にとって大切な財産になっています。追いコンも結構酔ってたし、選手権から立ち直れてなくてほとんど伝えられてなかったので、大変恐縮ですがこの場を借りて囲碁部で関わってくれた人々に感謝申し上げます。また飲みましょう。

今これ深夜に書いてるのでたぶん後で読み返して死ぬほど恥ずかしくなるやつな気がします。

最後に、後輩へ伝えたいことが 1 つ。社会人マジで忙しくて寂韻を書く暇なんてないから、暇な春休みのうちに絶対に書き終えていた方がいいです。健太ほんとごめん許して。

齋藤純之介（令和 2 年卒）

コラム 1　タンペット・プランタニエール

春という季節は、なんという無鉄砲さを私にもたらすものであろうか。3 年生になった今、昔を振り返ると、なぜこの道を選択したのか（あるいは、私の知らない何ものかによって選択されたのかもしれないが）わからないことは多い。

2018 年 4 月、長かった大学受験を終え、私は母とともに東北大学の入学式に来ていた。私にもとうとう「春」が来たのである。入学式のために朝早くから新入生たちは、富沢駅からカメイアリーナ仙台までの長い行列に並んでいた。多少の日差しはあるものの、仙台のまだ肌寒い春のなかで、慣れないスーツを着て浮き足立っているように見えた。

長い行列を抜け、入学式の会場が近づくにつれ、だんだんと人びとの密度は高まっていた。部活やサークルのビラ配りが行われていたのである。喧々囂々としたビラ配りの花道を、揉みくちゃになりながら、やっとの思いで通り抜けると、手の中で山積みにされたビラたちを整えた。

それぞれの部活によって異なった形の、大量のビラを綺麗に整えるのは一苦労だった。そこで少し私はいらいらとした。その後も、入学式が始まるまでなんとなく落ち着かず、ばくばくとうるさい心臓だけが、まるで安住の地を求めるかのように、勝手に私の身体の範囲を越えて駆けだしてしまいそうだった。

しかし、大学に入学したての、右往左往するだけのちっぽけな私の「中心」は何もできずにいた。自己への苛立ちは、漠然とした無力感とそれでも抗いたいきもちのせめぎ合いであった。それは春の嵐であった。春の嵐は私を巻き込み、私の思ってもみなかった方向へと半ば無理矢理に導くのであった。

何か新しいことがしたい。そうだ、ビラをパラパラめくり、ストップといったところの部活に入ろう。

この無鉄砲なアイディアは、不安と希望が複雑に絡み合った、カオスに支配された化け物が生み出したものだった。化け物に操られながら、ビラたちを目を閉じながらパラパラとめくり、こころのなかでストップと言った。目を開けるとそのビラは、学友会囲碁部、と書かれていた。

大学の授業が始まったある日の午後、私は早速囲碁部へと足を運んだ。ビラに初心者歓迎と書いてある。私にも参加する資格があるだろう。そう思い、部室のドアを開けた。

そのときから、私はイゴブインとなっていった。なぜ囲碁部員ではなく、イゴブインなのか。多分、囲碁以外にも他にボードゲームで遊ぶからだろう。実際、1 年生のときはあまり囲碁をやらなかった。どうせやっても負けるから。

しかし、2 年生になり囲碁大に行く機会が多くなった。そこでやっと勝ちたいという思いが強くなった。私に取り憑いていたのは負け癖。そうか、君だったのか、負け癖くん。悪いが、君を祓わないといけないんだ。ごめんね。今まで私のいいわけになってくれてあり

がとう。

こうして私は本格的に囲碁を始めた。一から先輩方や同期たちが相手をしてくれ、わかるまで教えてくれた。２年生の冬には大会に出始め、初めて勝つ楽しさ、負ける悔しさを覚えた。今までやったことのないことをやるのは、当たり前だが難しかった。しかし、同時に今まで出来なかったことを乗り越える楽しさがあった。そしてそれを支えてくれる人たちに恵まれた。そのおかげで、私は安心して自己の開拓に励むことができた。

私の春の嵐は、化け物なんかではなく、美しい桜の花びらたちの祝福だったのかもしれない。

（文責：吉村香織）

コラム 2　編集中記

寂韻。それは 2 年に 1 度刊行される東北大囲碁部誌である。そう、2 年に 1 度……。気づいている方がいらっしゃるか分からないが、本寂韻は 4 年ぶりに刊行される。前編集長であった須田さんの後任として私、千田健太が編集長を任されたのである。本来であれば、2 年前つまり 2020 年秋頃には寂韻が製本され、OBOG に郵送するはずであった。(OB 交流会のタイミングで郵送することになっていた。)しかし、現在(2022 年)にも猛威を振るうコロナウイルスの影響で OB 交流会は中止。いわば寂韻を発行しなくてはならない期限がなくなってしまったのである。(そんなことはない。)加えて、記事は集まった（本当のことを言えば集まらなかった）が寂韻の編集が面倒くさそうに思い、見て見ぬふりをずっとしてしまったのだ。心の中では「早く寂韻を完成させなさい」とリトルケンタ A が、「面倒くさいから後回しにしろよ」とリトルケンタ B が言い争いをしていた。そんなふうに過ごしている間に私は、大学の卒業が迫ってきた。さすがにこのままずるずる引きずるわけにはいかないし、引き継ぎもしなくてはならない。やっとこのタイミングでリトルケンタ A が勝ったのだ。ということで、大学卒業が 2 週間前というタイミングで編集、本コラムの執筆を行っている。今思えば、2020 年の段階で作っておけば…と後悔している。後悔先に立たずとはまさにこのことだ。そういえば、前寂韻(Vol.30)で須田さんが発行が遅くなったために、「次号編集者がだれになっても私よりはちゃらんぽらんではないはずなので大丈夫だ」と編集後記で書いていた。しかし、そんなことはなかった。下には下がいる。これから編集長になる方は、私のように決してならないで欲しい。心からそう願う。

結局私は、2018、2019 年度を編集しまとめたが、発行するまでには至らなかった。引継ぎのタイミングが来たので、次期編集長である七虹ちゃんに 2020、2021 年度を加えて発行して頂くことにした。本当にありがとう！！！

最後に 2018、2019 年度の記事を書いてくださった部員の皆さん、寂韻の刊行が遅れてしまい本当に申し訳ありません。そして仕事、勉学と非常にお忙しい中執筆に協力してくださりありがとうございました。

（文責：千田健太）

新入部員紹介

● 2019 年度新入部員

卯埜:
理学部物理学科。級位者。数少ない女子部員。入部当初は 8 時くらいに帰る健全部員だったが、その後遅くまで残る部員へと成長。その適応能力の高さは部内トップクラス。

佐藤:
医学部保健学科。医学部軽音と兼部している。数少ない女子部員。初心者ながら囲碁大担当で、一年(当時)の中で一番囲碁大に行ってくれる。ほかの一年(当時)にももっと行ってほしいとのこと・・・。

田老:
工学部材料科学総合学科。初段。岩手出身で S 柳さんや O 川さんの意思を継ぐ男。グロ系漫画が好きで部室に持ち込むほど。授業中に某漫画の感動シーンを思い出し泣きする心優しい純粋な一面も・・・。

谷川:
理学部地球科学科。元院生で今年度の新人王。2 年の S 平とは同じ囲碁教室に通っていた過去がある。暇さえあればパチンコ、スロットに出かける根っからのギャンブラー。H 下さんの後輩であり、同じ匂いを感じる。

高畠:
工学部機械知能工学科。大阪出身。初心者で入部したが熱心に勉強し今では有段の実力を持つ。囲碁だけではなくスマブラや麻雀もたしなんでいるようす。一年(当時)の中では一番部室に来ており、行けば大体いる囲碁部の鑑のような男。

小野田:
工学部機械知能工学科。級位者。T 畠が連れてきたゲーマー。部室に来るときは囲碁を打つことよりスマブラをすることの方が多い。しかし、単位は真面目に取っているらしく意外と真面目キャラ。来年度部長。

駒形:
工学部化学バイオ工学科。級位者。囲碁はあまり打たないがイベントに参加してくれるいいやつ。夏合宿では持ち前の天然さとリアクションでワードウルフを盛り上げてくれた。

2020 年度　全日本学生本因坊決定戦

2021 年度は世間的にコロナウイルスに翻弄された一年でした。もちろんそれは学生囲碁界も例外ではありません。例年夏に開催されている本大会ですが、今回は大会史上初めてオンラインという形式で行われました。
当時の私自身の囲碁のモチベーションは低かったと記憶しています。この時期はコロナのせいで大会等は軒並み中止になり、また院試が直前に控えていたこともあり対局の機会が激減していました。したがって、練習はあまりできておらず、ほぼぶっつけ本番で大会に挑みました。

プロ級の実力者も多い中、私のような一般人が上位進出するため、とにかくワンチャンあるヤマに入ること、これが重要になってきます。学生大会は今まで 4 回参加してすべて一回戦負けの私、くじ運で圧倒的な徳を見せつけます。東北代表三人(他二人は成也と谷川)の中で最甘の枠に、しかもベスト 4 までずば抜けた実力者のいない枠に入ることができました。こちとら負けてきた数が違う。
さて大会始まって、初戦の相手は金沢大の萩原さん。北信越地区で強い人といえばまず名前が挙がる、選手権では補欠爆撃を担う実力者です。高校時代に北信越大会で一度対戦経験があり、当時は私が勝利しています。握って私の黒番。序盤は白が軽快に打ち進め、私のやや劣勢で中盤戦に突入します。中盤、戦いの途中で黒の弱い石ができたものの、白も咎めきれずに微差で終盤に突入します。終盤、白がやや緩んでしまったために勝負あり。今大会は持ち時間 60 分の切れ負けであり、白は終盤に時間が残ってなかったので仕方ない部分もあったかもしれません。内容は散々で、中盤あたりの評価値は 30%前後の低空飛行でしたが、何とか勝つことができました。

2 回戦の相手は早稲田大の七沢君。私と同じ新潟県出身のため、彼とは幾度も対局経験があり、対戦成績はわずかに私が勝ち越しています。彼は非常におとなしいですが、頭がよく、性格も素晴らしいので、せめて囲碁では勝っておきたい。握って私の白番。序盤は穏やかな進行。中盤の頭で白がポイントを挙げ、優勢になります。その後は緩みに緩みましたが、最後は何とかコミにかけました。評価値的には一度も悪くなっておらず、途中緩んでしまったのは課題ですが比較的良い内容で勝つことができました。

準々決勝の相手は関西代表の岡田君。実力的には自分と同じ一般人枠ですが、その中では間違いなく最強クラスです。大学入学以降、練習碁を打つ機会が何度かあり、今までの対戦成績は二勝二敗と全くの五分。一般人の二人のどちらかがベスト 4 になる状況が学生囲碁界的には面白く、非常に注目度が高かったようです。握って私の黒番。序盤に少し白がリードを奪いますが、中盤の入り口から始まった競り合いから徐々に黒がペースをつかみます。途中、白に判断ミスがあったようで、競り合いを先手で切り上げた黒が最後の大場に先着して勝負あり。最後は大差での決着となりました。

この結果、私はベスト 4 に進出しました。学生の囲碁大会でこの位置に上ってくるような人はほとんどがプロ級の実力者です。その中で、運も味方に付けつつではありますが、ここまで勝ち上がることができて非常にうれしく、今までの努力が多少なりとも報われたように感じました。

なお、本大会はベスト 4 からは対面で行われる予定でしたが、コロナ情勢のこともあり、中止となってしまいました。それでも、個人戦の全国大会で私史上最も上位進出できたという点で、非常に思い出深い大会となりました。

（文責：五十嵐壮太）

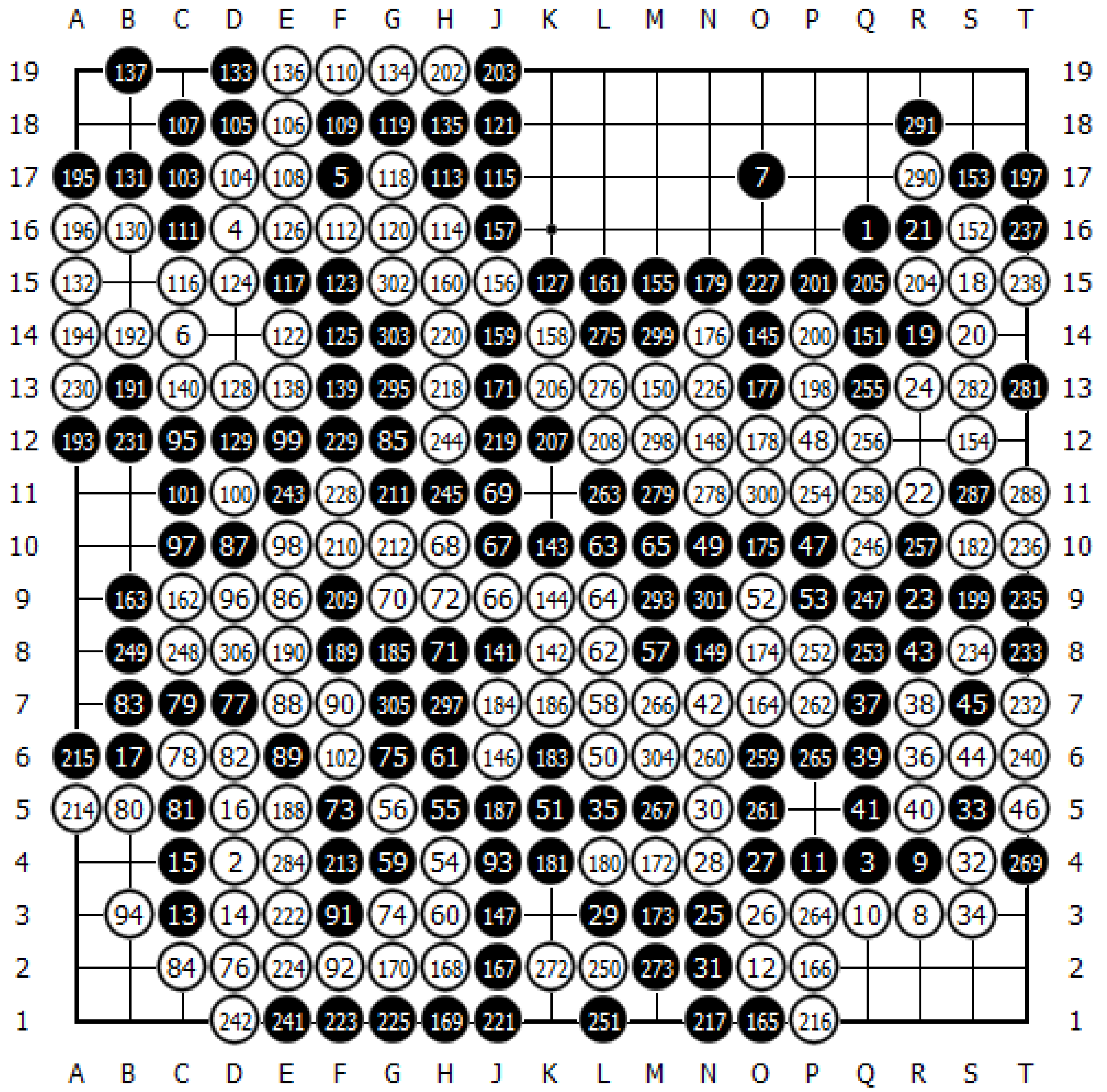
2020 年度　学生本因坊全国大会　準々決勝

黒　五十嵐　壮太

白　岡田　天斗

結果　黒 12 目半勝ち

総譜(1~306)



239 S7 268 S8 270 S5 271 S7 274 S8 277 S7 280 S8 283 S7 285 G5

286 S8 289 S7 292 S8 294 S7 296 E6

2021 年度　全日本女子学生本因坊決定戦

今回の全日本女子学生本因坊決定戦には、大学に入学して 4 度目の出場となりました。女子学生本因坊戦は covid19 が猛威を振るい始めた 2020 年から完全対面での本戦が中止になり、代わりにネット本戦というオンラインでのリーグ戦を行い、各リーグで勝ち上がった 4 人のみが対面での決勝大会に進むという形になりました。このような状況下でも大会を開催していただけることはとても有難いことですし、オンラインで試合が出来る囲碁は便利だなぁと思いました。ただ、現地で各地域の猛者たちと交流できる機会が無くなってしまったことはとても残念です。さらに対面でしか味わえないあの緊張感や相手の表情を見られる楽しさ、石音の風情は代えがたいものですから、早く対面で堂々と碁盤の前に座れる日が来て欲しいなと思います。ネットでの対局は 2020 年度はただパンダネットを開いて対局するだけでしたが、2021 年度からは AI 不正利用等を取り締まるため、ネット碁を打っている姿を別のカメラで見えるようにする対策が行われました。私は撮影用三脚のようなものを持ち合わせていなかったため、靴箱を積み上げて頑張って撮影しました。その後は、緊張して瞳孔開きっぱなしで対局を行っていたところまでは覚えているのですが、対局内容については 1 年前のことで大変記憶がおぼろげです。残っている棋譜を見て当時の自分の考えを必死に思い出しております…。それでは、中でも一番緊張していた 2021 年度女子学生本因坊戦ネット本戦第一回戦について振り返りたいと思います。この対局は女流アマ全国準優勝経験のある田中ひかるさんとの対局でした。この一局は序盤からかなり石が散らばった戦いの碁となりました。B9 という緩着の後 C3 に入られ上手く対処出来ずに大きな攻め合いに持ち込まざるを得なくなり大変苦しい碁になってしまいました。複雑な戦いを全局的に正確に読む力や、中盤における石の大小を判断する力の必要性を痛感する一局でした。その後は 2 戦し、最終的に 1 勝 2 敗という結果でした。改めて全国の壁の高さを感じた大会となりました。

今年もまもなく女学の季節がやってきます。普段星稜キャンパスにおり部室になかなか行けず囲碁から離れ気味な生活をしている筆者ですが、鈍った体をたたき起こし、全国大会で戦える頭にするため基礎から鍛えなおしたいと思います。学部が 6 年間あるチートを駆使して、女子学生本因坊戦はもちろん、選抜の予選も頑張っていきたいです。これから 2 年弱、少しでも囲碁部の盛り上がりに寄与していければと思います。

（文責：山崎真瞳子）

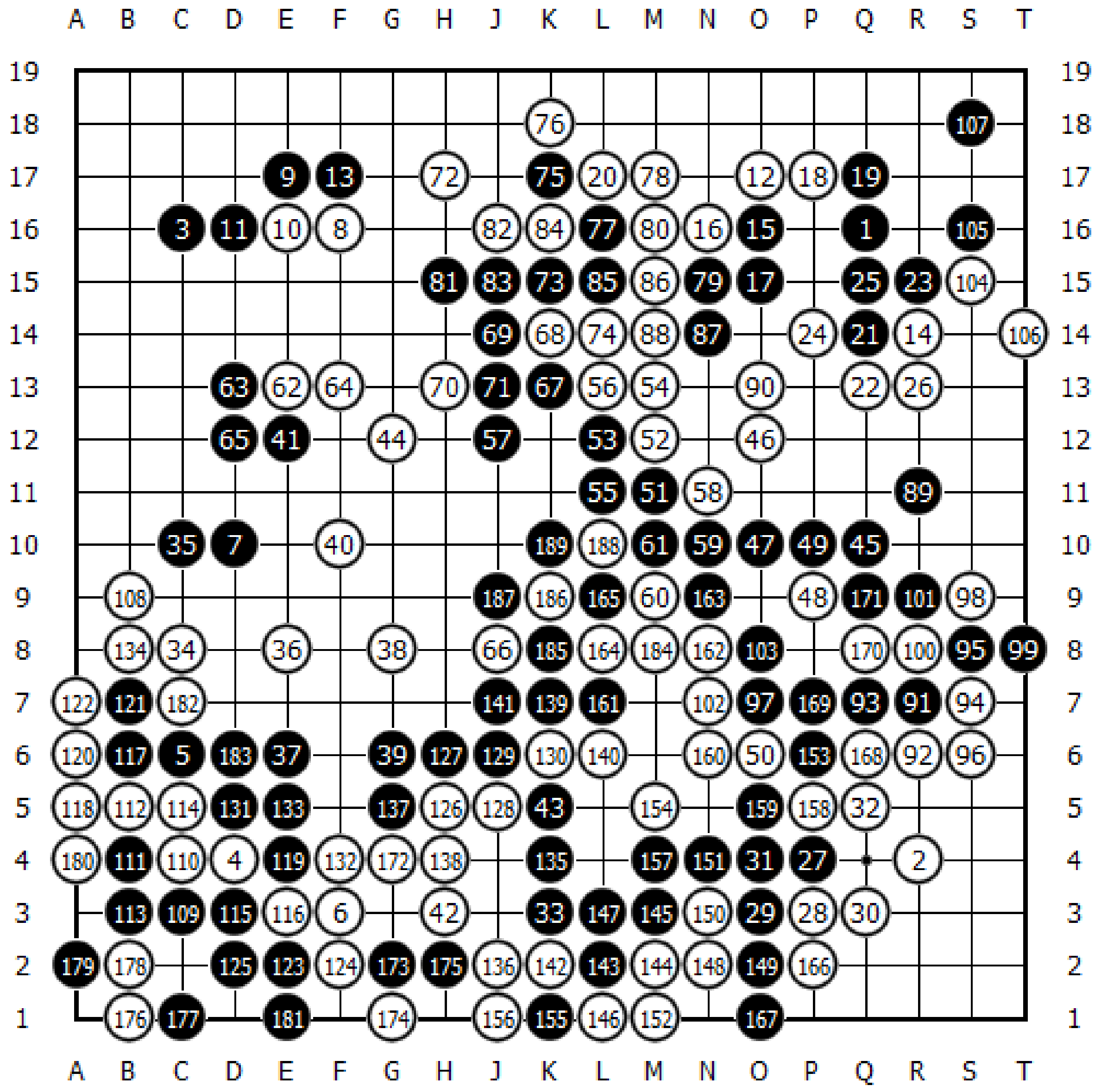
2021 年度　女子学生本因坊全国大会　1 回戦

黒　田中　ひかる

白　山崎　真瞳子

結果　黒中押し勝ち

総譜(1~189)



2021 年度 全日本学生十傑戦

第 57 回全日本学生十傑戦は、令和 3 年 10 月 30 日、31 日に仙台本町囲碁倶楽部で東北地区予選、令和 3 年 11 月 27 日、28 日に日本棋院東京本院で本戦が行われました。昨年度はコロナ禍の影響で中止となったため、2 年ぶりの開催となりました。

東北地区予選は 1 日 2 局ずつを 2 日間の日程で行われました。私は 4 回戦で岩手大学の吉原理一郎さんにいいところなく負けてしまいましたが､3 勝 1 敗の 2 位で本戦に進むことができました。優勝が吉原さん、3 位が福島大学の鈴木隆平さんで、以上の 3 人が本戦に出場することになりました。ここ数年東北勢は 2 回戦に進めていなかったこともあり、1 没して当日帰りになることだけはなんとか避けたい､､､と思っていました。

当日の朝は珍しく時間に余裕を持って会場にたどり着きました。（兄弟そろって遅刻癖とは。。）日本棋院は高 3 の夏の選手権以来だったので、到着したときにはなんだか懐かしい気持ちになりました。しかし対局会場に入ってみると強そうな顔と名前の人がたくさんいて懐かしい気持ちは消え去り、（自分も強そうなふりをして）開会式が始まるまでの暇な時間をどきどきしながら待っていました。開会式が始まってみんなの前でちょっとした自己紹介をしてから運命の組み合わせ抽選が行われました。

抽選の結果、1 回戦目のお相手は関西地区代表の水野雄亮さんに決まりました。名前は存じ上げていなかったのですが関西地区代表なので強い。しかし今回は近年の東北勢の 1 没の連鎖をどうしても止めたかったので、なんとしてでもこの 1 回戦目は勝たなければなりません。対局は序盤から難しい進行が続き、よく分からないままずっと打ち続けていました。しかしお相手の石をとることに成功し、なんとか 1 回戦目を突破することができました。これにより目標をだいたい達成できたので 2 回戦目以降気楽に打てたように思います。

2 回戦目のお相手は中国四国地区代表で高校 2 年生の松田智貴くん。1 回戦目で東北代表の鈴木さんを破って勝ち上がってきました。高校生とはいえ全く楽な相手ではありません。途中自分がはっきりおかしなことをしていたようですが、運良く見逃してもらい勝つことができました。

準々決勝のお相手は関西地区代表の水精次元さん。皆様ご存じのとおり立命館大学のとても強い方です。さすがに準々決勝なので自分以外には本当に強い方々しか残っていませんでしたが、ここにきて大学囲碁界の厳しさを思い知らされるのかーと半ば諦めそうになりながら、それでも勝ちたいので負けても仕方ないから気楽にということだけを考えていました。この対局は棋譜を次の次のページに載せていただいたので少しだけ振り返っていきます。

序盤は割と穏やかな進行になり、自他共に認めるほどの序盤の下手さをまあまあいい感じにごまかせている気がします（いいとは言ってない）。白 22 と 24 の 2 手はなぜか考えている途中に光って見えたので打ったのですが、おそらく AI も推奨の手だったようで嬉しく

なりました。とにかく序盤はあまり悪い手は打っていなかったみたいなのですが、右下のサバキで少しもたついてしまい、上辺で居直られたときは少し打ちにくいと思っていました。そこで白56から仕掛けにいったのですが、少し無理気味だったこの仕掛けが結果的にはうまくいきました。ここを先手で切り上げて右辺の白108にまわり、110から126と中央を囲えば地合は白が良さそうです。この後はヨセでだいぶ緩んでしまい反省点は残りましたがなんとか残して勝つことができました。

これで1日目は終了しました。準々決勝の後に記者の方から「明日の準決勝は岩井さんだからヒール役だね」と声をかけていただいたのですが、ヒール役？？？？？となり（語彙力の少なさに助けられ）特に気にすることなく2日目に臨むことができました。

2日目の準決勝のお相手は先ほども書いたとおり関西地区代表の岩井温子さん。高校生時代は女子の部で無双していたのでぜひ一度対局してみたいと思っていました。握って私の白番。そういえばここまで全局白番です。対局は序盤で優勢を築けたのですが、そこから岩井さんの怒濤の粘りに遭いとても難しい局面が続きました。それでもなんとかちゃぶ台返しされることなく勝ちきることができ、（ヒール役は全うできなかったものの）決勝に進むことができました。

決勝のお相手は関東地区代表の川口飛翔（つばさ）くん。高校の団体戦で一度対局したことはありますが本当に強い。世界アマ選手権の日本代表になったこともあるので当然ですが､､､肝心の対局ですが特に見せ場もなくじわじわと差をつけられてしまったという感じで完敗でした。まだ高校生のときの対局のほうがいい勝負できてたなと思いつつ楽しく打ててはいました。でも悔しい。

それでもこんなにも強い人がたくさんいる大会で（トーナメントの右側に強すぎる方々が固まっていたとはいえ）準優勝できたのは自信になりました。同時にこれからは決勝まで行けたのがまぐれだと思われないように、いろいろな大会で勝てるようにもっと強くならなければとも感じた大会になりました。

最後に、コロナ禍において対面での開催を実現してくださった関係者の皆様、ありがとうございました。

（文責：五十嵐成也）

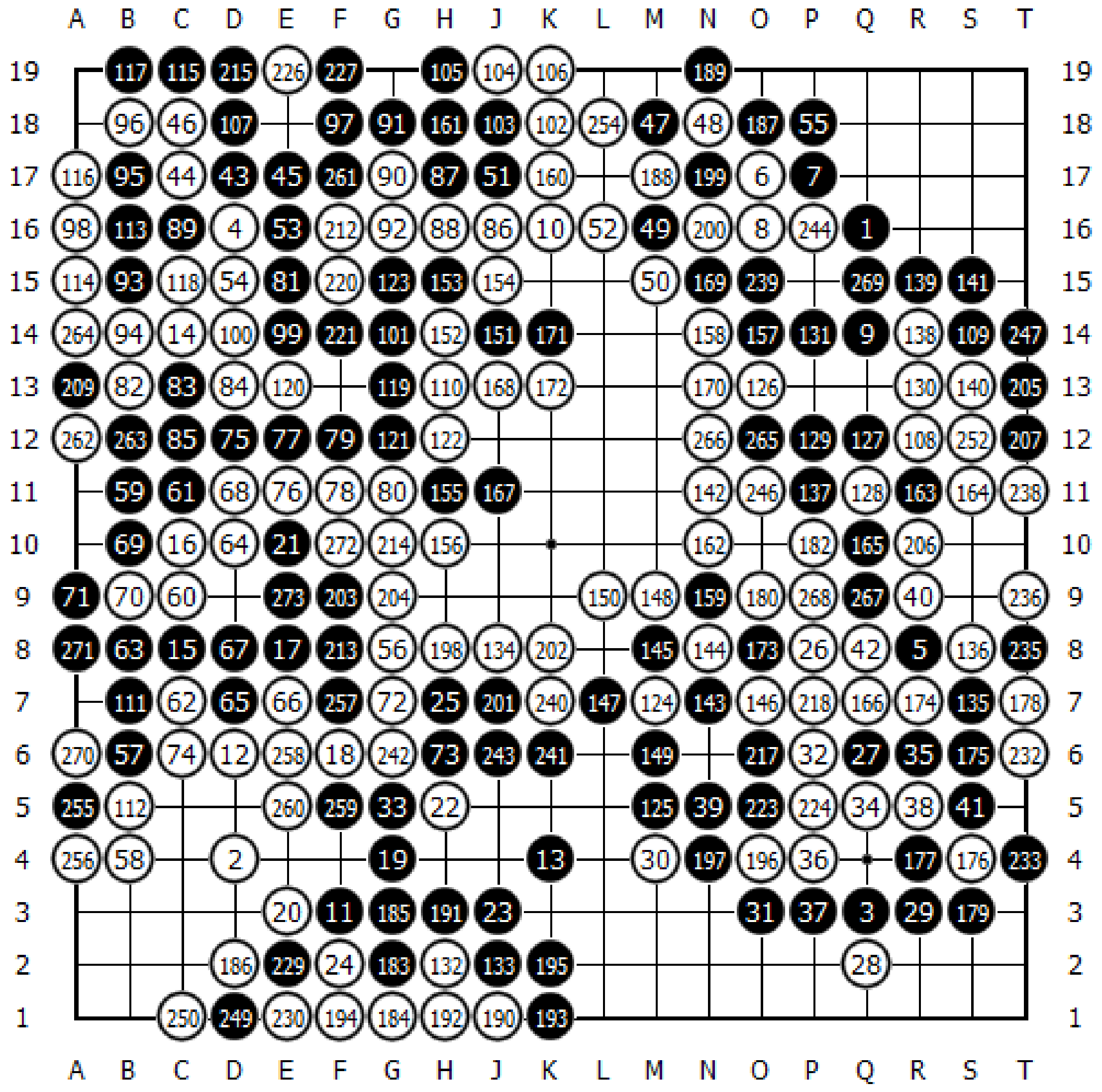
2021 年度　学生十傑戦全国大会　準々決勝

黒　水精　次元

白　五十嵐　成也

結果　白 3 目半勝ち

総譜(1~273)



181 N8 208 Q11 210 B16 211 R11 216 Q11 219 R11 222 Q11 225 R11 228 Q11

231 R11 234 Q11 237 R11 245 N18 248 Q11 251 R11 253 Q11

2021 年度 学生王座戦

2021 年の全日本学生囲碁王座戦は、予選がインターネットで行われるせいか、誰も出たいという人がおらず、東北代表が岩手大の吉原理一郎さんのみ、という状況にありました。大会の前日、連盟の方から「東北代表がいないのですが、王座戦に出てくれませんか？」と家に電話がかかってきました。実はその日用事がなかったわけではないのですが、連盟の方が困っていそうでしたし、王座戦の方が楽しそうだなと思ったので、急遽、王座戦に出ることとしました。

その後、対局時間などの詳細が書かれたメールが送られてきたのですが、そこには「1 回戦の対戦相手ですが、先週、十傑戦で優勝した川口飛翔さんになりましたね。」というメッセージが…。もしかして、やっぱり私が出るような大会じゃないのかもしれません（笑）でもまあ、こんなに強い方と当たれる機会は滅多にないので、精一杯がんばろうと思いました。

対局は、序盤から上辺を囲ってしまったことで少し打ちづらくなり、中盤にかけてどんどん形勢が悪くなっていき、力の差を見せつけられて中押し負けという結果になってしまいました。なんというか、サラサラ打たれて普通に負けた、という感じでした。

続く 2 回戦。対戦相手は、林田威風さんという方でした。ググってみると元院生の方で、こちらもものすごく強かったです。それにしては頑張ったと思うので、この碁を振り返ってみます。

私の白番です。AI によると白 26 とトンだあたりまでは、そんなに変な手も打っていないし、互角の進行のようです。しかし、白 30 と三々に入り、白 40 まで隅で小さく生きてしまい、外側の黒が厚くなってしまったのがあまり良くありませんでした。その後、白 54、56 と右側の白を補強しにいったのですが、この 2 手が甘く、評価値が徐々に下がっていきます。打っているときは、白の眼がないということばかり考えていたのですが、実は下辺の黒もそんなに強い石ではありませんでした。7 の J あたりにせまりつつ、自分の石も強くする手を選んでいた方が良かったようです。しかし、その後の下辺の攻防で若干黒が損をし、評価値は互角くらいまで盛り返しました。ただ、黒 63 のノゾきに白 64 とコスんで受けたのが、またもや甘かったです。先ほどから散々手をかけてきたので、ここでは受けずに左辺を開いておくべきでした。この 1 手により白の評価値は 20%代に落ち、かなり苦しい形勢になってしまいました。でも、白 72 と黒を封鎖しにいった手で、7 の B にオサえていればまだチャンスはあったかなと思います。実戦は下辺を手抜かれ、左辺のワリツギを打たれたため、隅の白地が減ってしまいました。黒 95 と中央を消されては、右辺と上辺の黒地が大きすぎて、ちょっと勝てそうにありません。

結局、2 回戦とも負けという残念な結果に終わってしまいましたが、強い人と打てたのは非常に勉強になりました。あと、隣のブロックにいた京都大学の岩井温子さんが、強敵相手

にものすごい熱戦を繰り広げていたのがとても印象に残っています。私も岩井さんのように、全国の選手と良い勝負ができるようになりたいなと思いました。せっかく部内に強い人がたくさんいるので、鍛えてもらおうと思います。

（文責：大宮七虹）

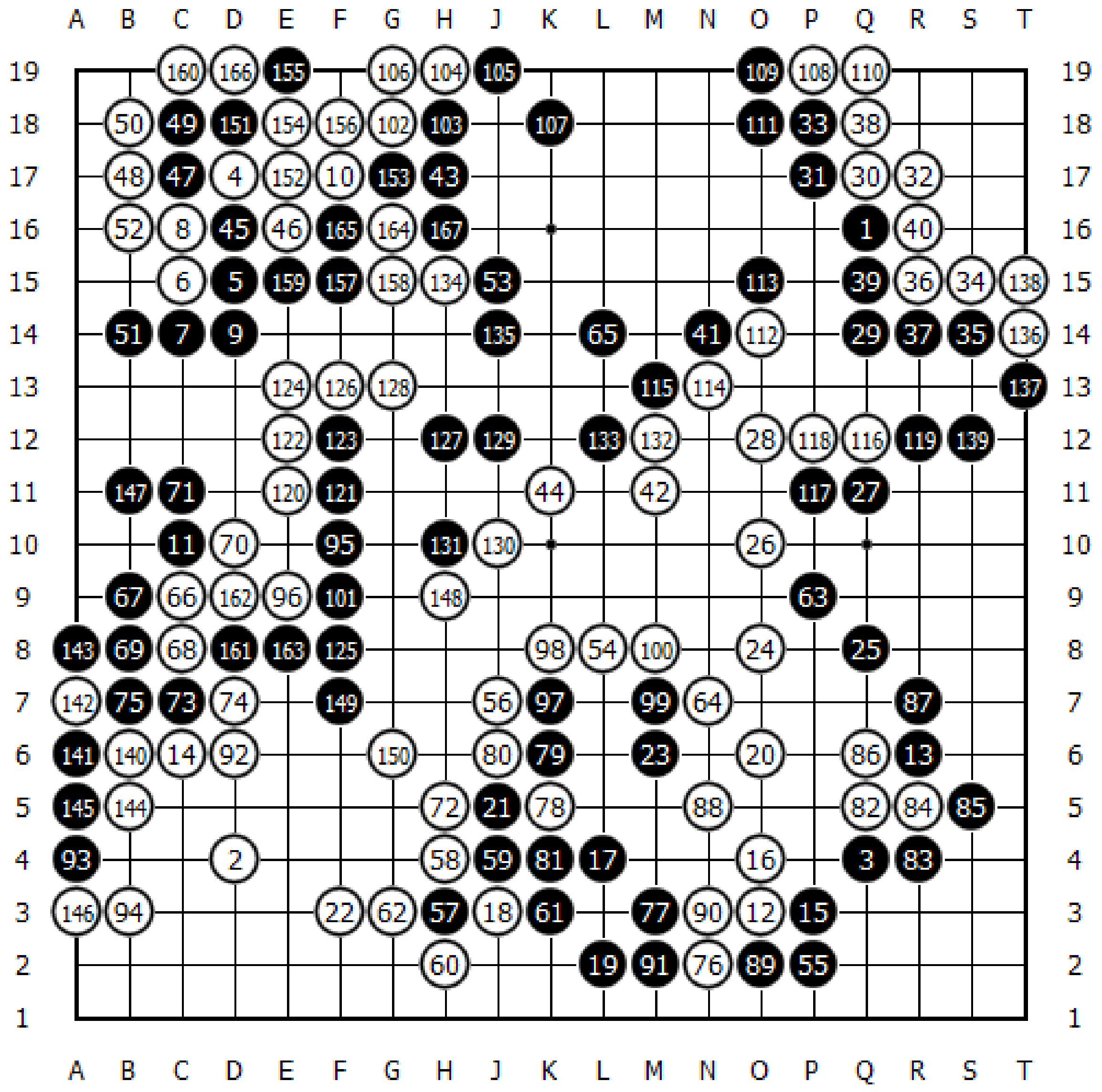
2021 年度　学生王座戦

黒　林田　威風

白　大宮　七虹

結果　黒中押し勝ち

総譜(1~167)



第 62 回　全日本大学囲碁選手権

2021 年度の選手権の執筆を担当する千田です。今年度も 12 月 23～26 日まで計 4 日間行われました。前半 23,24 日を私が、後半 25,26 日を谷川が担当します。私が全日程分書いても良かったのですが、私が全部書いてしまうと 2020 年度 2021 年度の寂韻で谷川が担当する大会がなくなってしまうことに気づきました。(私は 2018,2019 年度分の寂韻編集長であり、引き継ぎの際どの大会を誰が担当するか次編集長と話し合った結果、ということです。)そういうことがあり、谷川に半分書いてもらうことになりました。

選手権当日の話をする前に、選手権メンバーを決めるための部内戦の結果を紹介しよう。1 位五十嵐(2 年)、2 位谷川(3 年)、3 位望月(2 年)、4 位菊地(1 年)、5 位大宮(1 年)、6 位続(1 年)、7 位千田(4 年)である。コロナ禍になって 2 年、強い後輩が入ったと聞いていた通り 1、2 年が 5 名と新体制で挑む。続いて、この結果を基にオーダーは次のようにした。

主将　　菊地秋(1 年)
副将　　千田健太(4 年)
三将　　大宮七虹(1 年)
四将　　続隼人(1 年)
五将　　望月雄真(2 年)
補欠 1　五十嵐成也(2 年)
補欠 2　谷川大知(3 年)

部内リーグの上位 2 名を補欠に配置し、相手に応じて副将、三将、四将を入れ変えるスタイルである。補欠が入らない残りの 3 人で 1 勝をもぎ取りたいと考えている。

ここからは大会当日の様子を振り返る。選手権当日、開会式は 14:30 から始まるので我々東北大メンバーは 11 時に仙台駅に集合し、仲良く新幹線で向かうことになった。囲碁部員は私も含めて集合時間に集まらない習性があるので、心配だったが今回は大丈夫だった。無事に日本棋院に到着した。2 階のあの会場に入ってすぐ「こんなに会場綺麗だったかな？」と思い、この 2 年で改装したことが分かった。しかし、2 年前の大会当日の写真を見ると、全く同じだった。ただ記憶がなくなっていたようだ、恥ずかしい。こんな話はさておき、今回の選手権はコロナ禍での開催ということで基本的には大会に参加する人以外の応援は禁止となっている。例年と違い今回は少し寂しい感じがした。

一回戦対広島

１回戦は広島大学。広島大は補欠１の竹田君が屈指の実力者であり、彼を筆頭に実力ある者が続く。主将秋君、副将成也、三将七虹ちゃん、四将谷川、五将望月君のオーダーで臨んだ。主将戦は秋君が危なげなく勝利した。副将戦成也は竹田君との一戦。序盤から中盤にかけて分断された石を取られ、惜敗。三将戦は七虹ちゃんが序盤からリードを保ち、そのまま一切緩むことなく勝利した。四将戦谷川は、中盤に相手の薄みをつく攻めをうまくかわし、そのままリードする形で勝利した。五将戦望月君は序盤に AI 定石を相手がミスり、大きくリードする形になる。しかし、中盤以降相手の果敢な攻めにより惜敗。結果としては 3-2 で勝利し、１日目の対局を終えた。

１日目の夜と言えば、毎年恒例の交流会(飲み会)である。ここで他大学の方とお酒の力を借り親睦を深めることが出来るが、今年はコロナ禍ということもあり行われなかった。非常に残念である。しかし、全てにおいて残念というわけではない。今年の宿はオリンピックセンターからアパホテルにグレードアップしたのだ。オリンピックセンターは 3，４人が一部屋に押し込まれ、綺麗とは言えないベッドで過ごす。もちろんこれはこれで良いのだが、１人１部屋、綺麗なベッドにシャワー付きという快適さには敵わないだろう。この快適な空間で疲れを癒やし、2 日目に備える。

二回戦対九州

2 日目の最初は九州大学。九州大はここ何年か 3 位争いをしていた東北大の宿敵である。特に補欠 1,2 に入っている岡君、寺下君の実力は折り紙付きであり難しい戦いになることは容易に想像が付く。オーダーは主将成也、副将谷川、三将七虹ちゃん、四将続君、五将望月君とした。主将戦成也は右辺の攻めがうまくいき、相手の石を取りこみ、その勢いのまま勝利。副将戦谷川は左辺から下辺にかけて大きく地を取り、最終的に右辺の相手の石を取り込み勝利。三将戦七虹ちゃんは岡君との対局となり、互いに大模様を形成する勝負になったが惜敗。四将戦続君は寺下君との対局。序盤から寺下君の鋭い手に力負けし惜敗。五将戦望月君は中盤の戦いで相手にリードされた。その後切られた石をそのまま取りこまれ惜敗。東北大は 2-3 で敗北した。

三回戦対名古屋

2 日目 2 局目は名古屋大学。名古屋大学はエースの櫑渕君を筆頭に中部地区代表を勝ち取った強豪である。我々としては、2 連敗は避けたいと気合いが入る。今回のオーダーは主将秋君、副将千田、三将成也、四将谷川、五将望月君で挑む。

まず私の対局を振り返ろうと思う。私が黒番である。左上のツケヒキ定石から始まり、黒19まで簡明な立ち上がりとなった。黒19でEの3にツケル手もあっただろうが、中央思考の手を選択した。黒27はスソガカリから白26までの石を低く抑えつつ、中央へのトビを防ごうとした手であるが、Rの14を打ち、白を圧迫するような打ち方の方が良かったと思う。その後、白は頭を出し、黒は上辺白のシマリにツケからのヒラキとなった。黒45に対し白46とノビ、実戦の進行となったが、ハネを利かし、Kの2にスベル方が良かったと思われる。黒はその後うまく白3石を取りこみ、勝負はまだこれからであるが打ちやすいかなという気持ちだった。黒81から黒93まで1石を良い形で取り、何事もなければ勝てる展開となった。しかし、ここで気持ちが少し緩んでしまったのか、Pの8で白を取り込めるところを黒101、黒109の堅すぎる手、黒113のサルスベリに対する緩みなど緩着が続いた。また黒147もBの6とノビルことができたが読み間違いで引いてしまった。この時点で白が若干良くなり、細かいヨセ勝負になったがヨセが甘いということもあり1目半負けてしまった。

他の対局はというと主将の秋君は橿渕君との対局。左辺白3石を飲み込まれ苦しい戦い。その後大きく地を削られ惜敗。三将戦成也、接戦の末1目半残し勝利。四将戦谷川は得意の地に辛い碁形。相手は中央に地を作るしかないが、その地を上手く減らし勝利。五将戦望月君、序盤は優勢だったが右下の石がコウの末取られ、やや苦しい展開。中央付近に地を作り、細かい勝負となるが半目負け。東北大は2-3で敗北し2連敗という非常に悔しい結果になった。

2日目夜

2日目の夜は東北大メンバー+谷川の高校の同級生で連盟幹事の松尾君の計8名で居酒屋に行くことになった。もちろん何を話していたかなど覚えていないが、目の前に座っていた続君の行動が面白かった記憶は残っている。何が面白かったと言われれば、行動?落ち着きのなさ?言葉にするのが難しい。あと、谷川が松尾君の暴露話をしようとして、必死に止めようとする松尾君の姿も断片的に残っている。帰り道に、秋君が突然「俺はかわいいんだ」と言っていたことも印象的だった。

最後に

今大会では自分の弱さを改めて痛感しました。しかし、この結果を糧にこれからの囲碁生活(気が向いたらかもしれない)を送ろうと思います。私以外の選手権メンバーは次があるので良い結果を期待しています！最後になりますが、大学の4年間で私に関わってくださった先輩、同期、後輩、ありがとうございました!

（文責:千田健太）

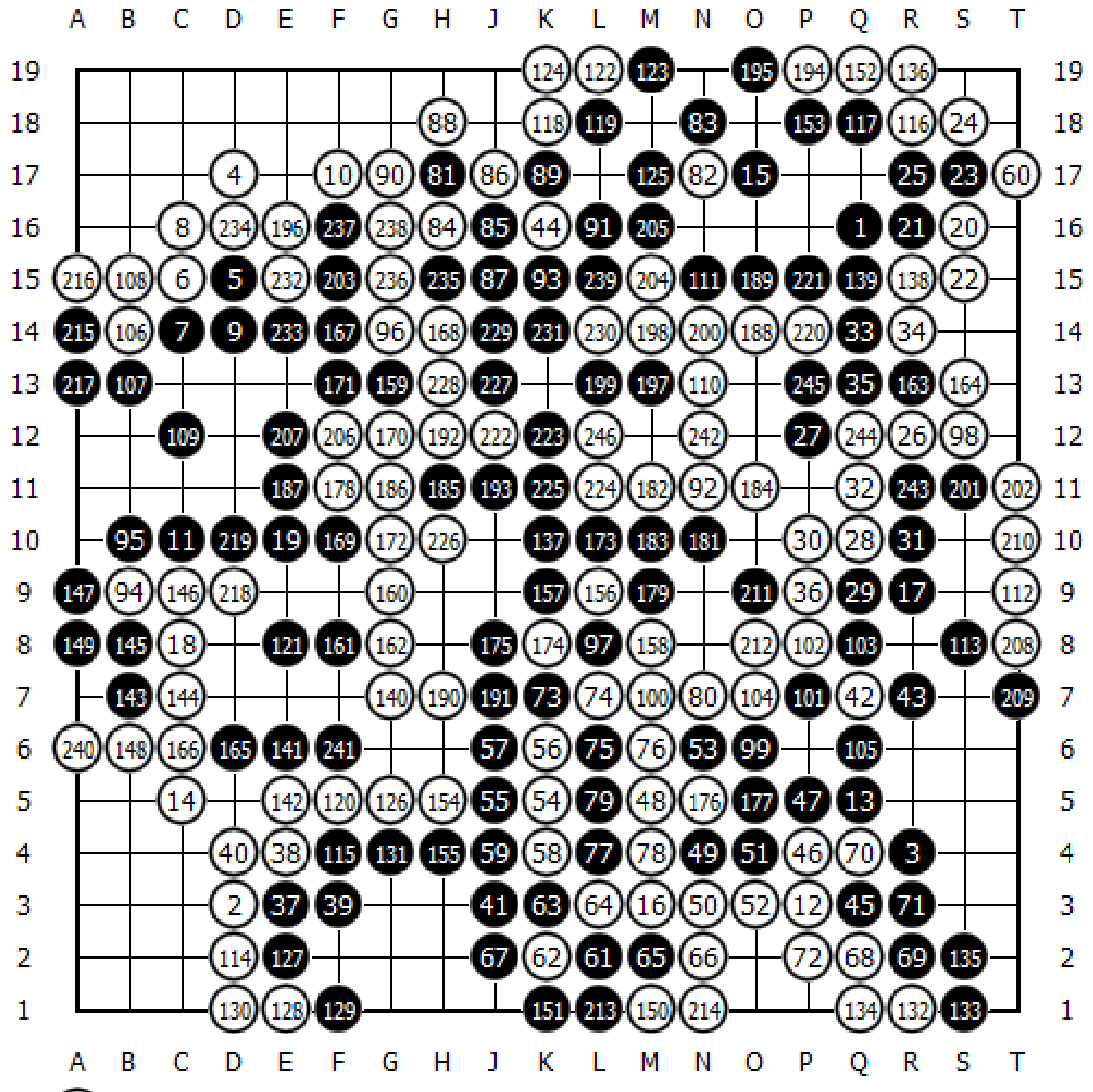
2021 年度　大学選手権　VS 名古屋大学　戦

黒　千田　健太

白　井上　始

結果　白 1 目半勝ち

総譜(1~246)



180 L8

2021 年度の選手権の後半（12 月 25,26 日）を執筆する学部 4 年（2022 年 6 月時点）の谷川です。選手権の前半（12 月 23,24 日）は健太さんが書いていますのでそちらの続きとなります。2020 年度の選手権は新型コロナウイルスのため中止となり、実に 2 年ぶりの開催となりました。学生本因坊戦、学生十傑戦などの大会も対面ではなくオンライン形式での開催が多く、私自身対面での対局の方が好きなので、しばらく大会に参加せず、また囲碁自体のモチベーションも上がっていなかったので、棋力がかなり落ちているのではという不安もありましたが、いっそのこと楽しんで対局に臨もうという心意気で選手権に参加しました。

それでは本題に入っていこうと思う。まず 2 年前の選手権メンバーと比較すると、

2019 年度	主将	山本祥平(2 年)	2021 年度	主将	菊地秋(1 年)
	副将	五十嵐壮太(3 年)		副将	千田健太(4 年)
	三将	斎藤純之介(4 年)		三将	大宮七虹(1 年)
	四将	及川陽平(4 年)		四将	続隼人(1 年)
	五将	山村聡太郎(2 年)		五将	望月雄真(2 年)
	補欠 1	千田健太(2 年)		補欠 1	五十嵐成也(2 年)
	補欠 2	谷川大知(1 年)		補欠 2	谷川大知(3 年)

このように多くのメンバーが入れ替わり、1.2 年主体の新メンバーで挑むこととなった。特に私の立場からすると、2 年前は先輩ばかりだったのに対し、今年は後輩ばかりということで、大会にしばらく参加していなかったということもあり、どこか感慨深いものを感じてしまった。次の選手権が学生最後の大会だと思うととても切なく感じてしまう。

続いて作戦だが、毎度恒例の補欠爆撃作戦（補欠 2 人が主～五将）のどこかに入って勝ち星を拾いに行く作戦）である。特に五将の望月君は主～五将でやや実力が抜けているので全戦固定、主将の秋君は調子が良い、部内リーグで 4 位だったということで、ほぼ全戦固定で、副～四将のうち 2 つに補欠が入る形となった。補欠 2 人で勝ち、残り 3 人で誰か 1 人でもいいから勝ってくれという作戦である。

四回戦対金沢

3 日目の 1 局目は金沢大学。金沢大学は北陸地区の常連であり、補欠 1 の山田さん、三将の永井君の 2 人が強く、戦力的にも東北大とほぼ同じくらいだと思われる。ここまで九大、名大と立て続けに 2 連敗を喫してしまっており、その後超強豪の早稲田、京大が控えており、ここで負けると 5 連敗が見えてくるので、何としてでも勝ちたいところである。今回の

オーダーは主将秋君、副将成也、三将谷川、四将続君、五将望月君で挑む。

まず私の対局を振り返ろうと思う。相手は三将の永井君、中々の強敵である。私が黒番である。まず今回の選手権では私は全ての対局（全 7 局）において、空き隅に小目&三々を採用した。私は非常に地に辛い打ち方が好きであり、なぜかこの構えが気に入ってしまったのでこの打ち方で統一しようと何となく思いついたからである。白 14 とカケられたときに、そのまま這っていくのは 4L あたりに打ち込まれやや打ちづらいと感じたため、長考の末工夫して黒 15 とコスんでみた。正しいかどうかは分からないが黒 21 と打てたので狙いとしては成功である。白 26 と小目に小ゲイマガカリされたとき、黒 27 とコスミツケて受けて黒 29 と打つのも今回の選手権においてほぼ統一した打ち方である。この打ち方は近年 AI が出てから有力視される打ち方で、私自身も非常に気に入っている。中盤 100 手辺りまでほぼ互角の形勢が続いたが、黒 105 で 19F に打つのが上手い手で、白は困っていたように思える。ここを見逃してしまい好機を逸してしまった。また黒 111 も酷い手で、一路左にノゾクのが正しい。黒 127 も白 128 と打っておくべきであり、白 128 と打たれてははっきり黒が悪い。実戦は相手の緩みもあり、最終的には半目勝負までもつれ込んだ。最後左辺中央の白地に 2 手手入れさせて黒半目勝ちだと思ったが、ここで大きな落とし穴が待っていた。なんと黒 247 と打ったときに白 248 と打つのが妙手であり、これで左辺中央の白地に 1 手の手入れだけで済んでしまうのだ。これをうっかりした私は対局中ボヤキを連発してしまい、結果黒の半目負けに終わってしまった。正しくは黒 247 で 9D と打っていくのが正しい手順で、これで黒の半目勝ちである。

チーム全体の結果としては、主将秋君、副将成也、五将望月君で勝ち、3-2 で勝利。チームのみんなに救われる形であった。余談ではあるが、この対局はお互いに時間を使い切り、最後の最後まで残っていたので非常にギャラリーも多く、ギャラリーの表情を見ても今現在 2-2 であり、勝った方のチームが勝利だと思っており、半目勝ちを半目負けにしてしまったと気付いたときは本当に頭が真っ白になった。自分の負けがチームの負けにならなかったのは不幸中の幸いである。

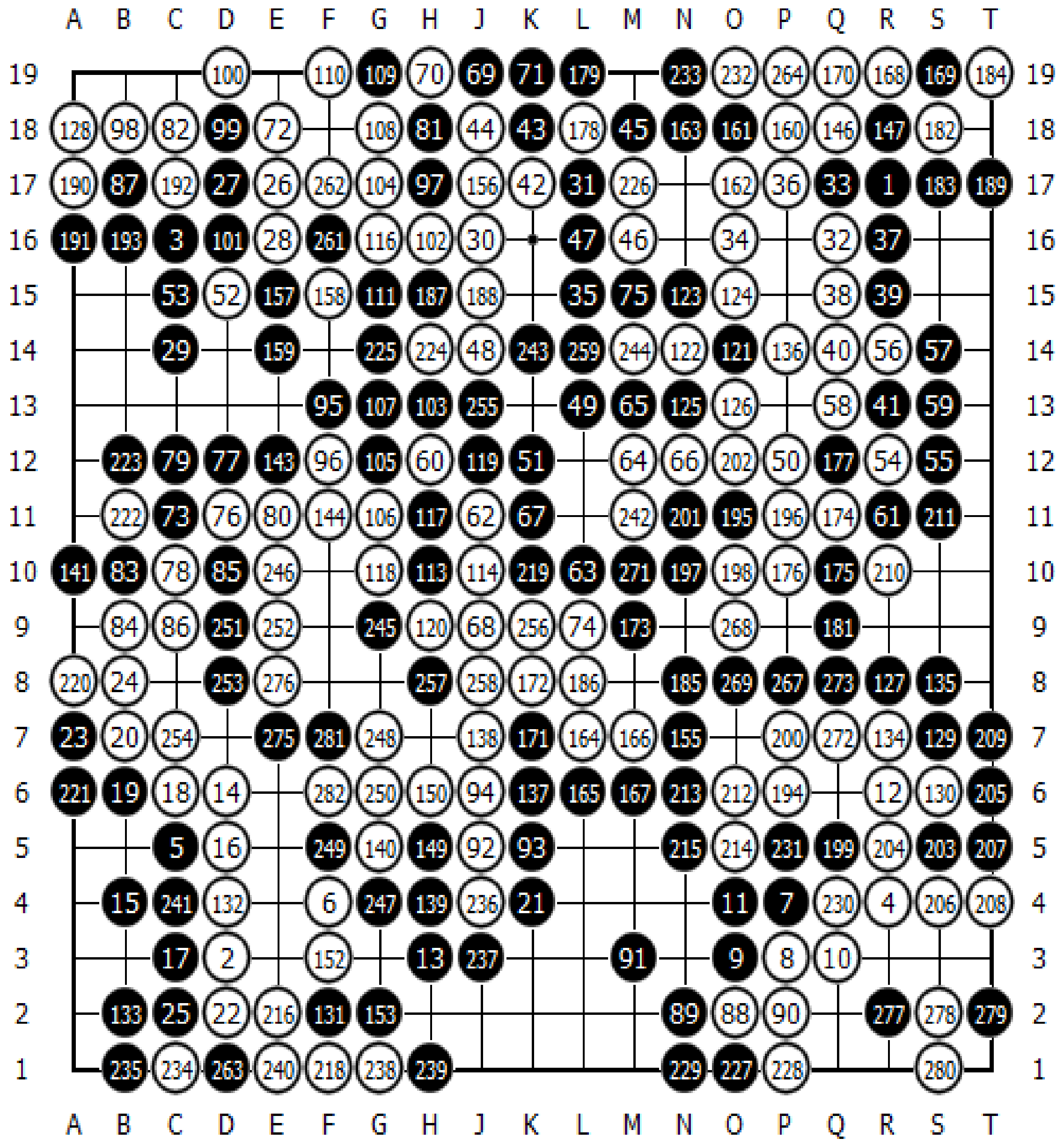
2021 年度　大学選手権　VS 金沢大学　三将戦

黒　谷川　大地

白　永井　克海

結果　白半目勝ち

総譜(1~282)



112 H19 115 G19 142 H19 145 G19 148 H19 151 G19 154 H19 180 R12 217 H12

260 O14 265 C1 266 Q12 270 F16 274 S19

五回戦対早稲田

3日目の2局目は早稲田大学。5回戦目となると体力的にも精神的にも疲労がピークになってくる頃合いである。早稲田大学は主将から五将までが部内リーグの順位順に並んでおり、どこかの大学のように補欠爆撃作戦を仕掛けない正々堂々としたチームである。全体的にも層がかなり厚く、早稲田と京大が今年度の優勝候補である。また主将の西山君、副将のコスモスは全国でもかなりの強豪であり、この二枚を抜いていくのはかなり難しい。そのため今回は、三将と四将に補欠2人が入り、三将、四将、五将で勝ちにいく作戦をとった。オーダーは主将秋君、副将健太さん、三将成也、四将谷川、五将望月君で挑む。

まず私の対局から振り返ろうと思う。相手は四将の李君で、9路盤が非常に強い相手である。私も9路盤に自信があるので一度対戦してみたいものである。私が白番である。白20と下辺に行ったときに黒21,23と打ったのがややぬるい手で、白24と開かれ右辺の厚みがボケてしまったように思われる。この対局の棋譜をとってくれていた下島君は、白番の私がかなり優勢だと思っていたみたいで、実際にAIの評価値で見ても白がかなり優勢だったが、対局中は黒53とツケられたとき、厚みが働くような気がしてあまり優勢だと思っていなかった。とりあえず白82で上辺の白は一安心。このまま順調にヨセれば白が余裕をもって残る形勢だ。最後は白がヨセでかなり損をしたが、結果は白7目半勝ち、結果を見れば余裕がある勝ちに見えるが、四回戦の半目負けを引き擦っていたことや、対局中はヨセでジリジリと接近されているような感じがしてあまり勝った心地がしなかった。

チーム全体の結果としては、三将成也、四将谷川が勝ったが、チームは2-3で一歩及ばず惜敗。余談ではあるが、早稲田主将の西山君が内のチームの三将七虹ちゃんにメロメロであり、七虹ちゃんに主将戦の棋譜を取らせて動揺を誘う作戦を考えたが、相手が正々堂々としたチームであったためこの作戦を棄却した。

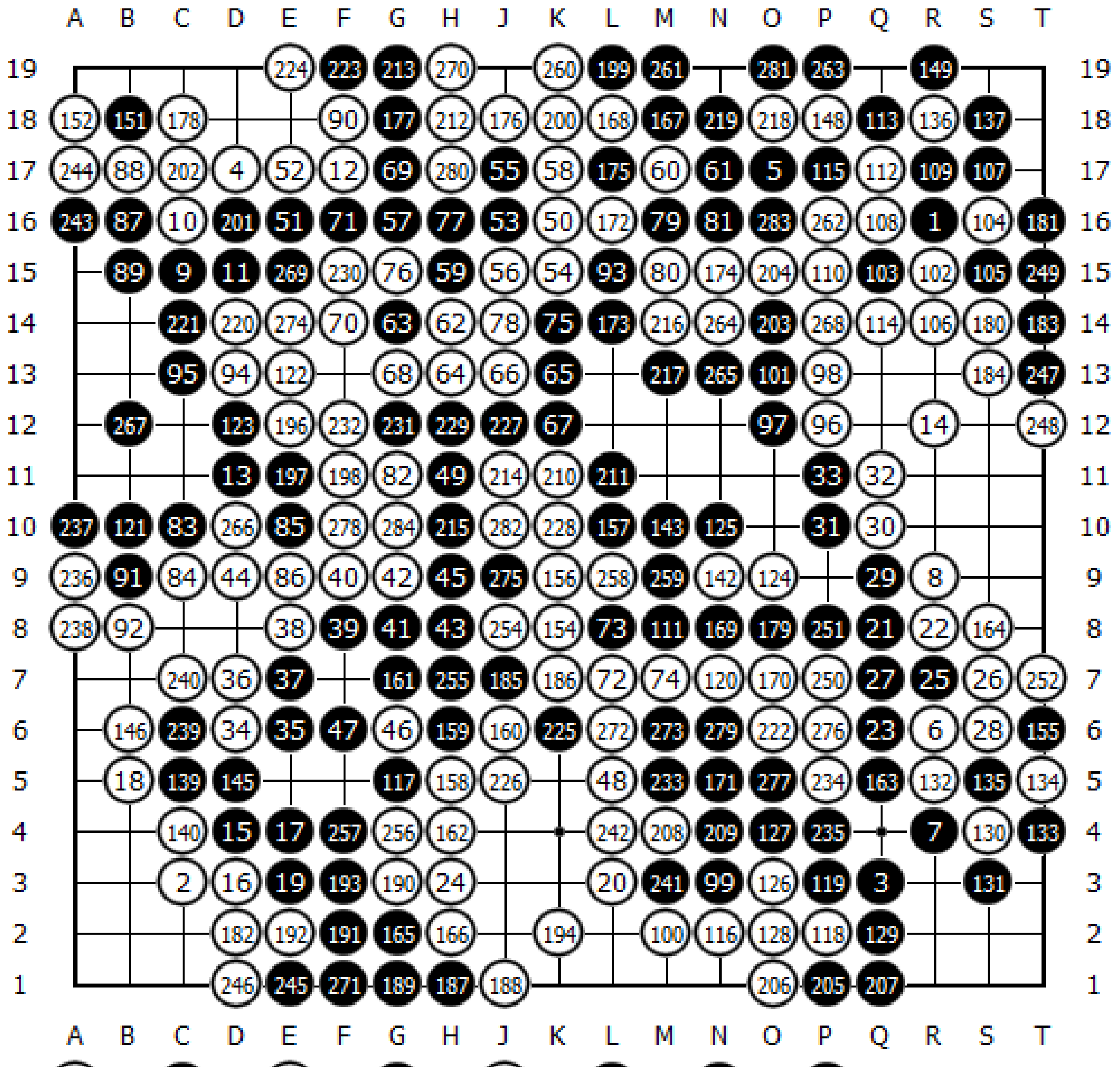
2021 年度　大学選手権　VS 早稲田大学　四将戦

黒　李　博暉

白　谷川　大地

結果　白 7 目半勝ち

総譜(1~284)



138 S4 141 S5 144 S4 147 S5 150 S4 153 S5 195 M17 253 T5

3日目の夜

今年度の選手権は新型コロナウイルスの影響で、基本的には大会に参加する人以外の応援は禁止となっており、例年のように東北大囲碁部の部員やＯＢ・ＯＧが来れずかなり寂しかったが、2年前の選手権メンバーである純之介さんが駆けつけてくれた。3日目夜はクリスマスであるが、この日は彼氏・彼女と過ごすのではなく、囲碁部で集まって飲み会をするのが東北大囲碁部の習わしである。そのため今年は例年より規模は少ないが、選手権メンバーと純之介さんの計8人で居酒屋にて飲み会を行った。2日目の夜も飲み会だったり、対局の疲労もピークだということもありお疲れ気味かと思われたが、全員ピンピンしていた。やはりお酒の力は偉大であり、3日目の夜は選手権一の盛り上がりであった。次の選手権では今年度の選手権メンバー全員が20歳以上となり、応援もできるようになると思われるため、更に大人数での飲み会が出来ると思うと非常に楽しみである。その後宿泊先のアパホテルで、私の高校の同級生で連盟幹事の松尾の部屋でトランプを使って大富豪を楽しんだ。それも非常に盛り上がったが、やはり松尾のコミュ力というべきなのか、人見知りをしないのはやはり長年経っても驚くものがある。健太さんの 2 日目の夜の話の続きではあるが、松尾の暴露話はしっかりと3日目の夜にメンバー全員へと伝わってしまったのであった。

六回戦対京大

最終日の4日目の1局目は京都大学。2年前までは京都大学ではなく立命館大学が関西地区の常連として出場していたが、今年度からは名高い立命館大学を抑えての出場であり、今年度の選手権の優勝候補筆頭である。主将から補欠 2 名の全員まで非常に層の厚いメンバーである。特に三将の北山君、四将の森田君は直前にプロ試験を受けており、2人共上位成績で打ち終えており実質プロ級、副将の古川君と補欠1の赤木君は全国でもかなりの強豪、補欠 2 の岩井さんは女流アマ最強格の 1 人であり、歴代の選手権優勝メンバーでも最強候補の 1 つである。こんなに豪華なメンバーが揃ったことも凄いが、こんなに強いなら補欠爆撃を使わないでほしいのが本音である。今回のオーダーは主将秋君、副将成也、三将谷川、四将続君、五将望月君で挑む。

まず私の対局から振り返ろうと思う。相手は三将の北山君で、実質プロみたいなものである。高校時代にも何度か対戦経験があり、顔なじみである。私が黒番である。白 34 まで、私が実利を取り、相手が模様を張るという毎度お馴染みの展開だったが、対局開始早々にアクシデントが起こる。副将の成也-古川 戦で相手の古川君が対局中に体調不良を訴え、検温の結果熱があることが確認され、PCR 検査を受けに対局場を後にしてしまった。そのため副将戦は中止となり、成也の不戦勝が決まった。成也も強豪の古川君と対戦してみたかったのか、不戦勝が決まっても、どこか不満げで複雑そうな顔をしていたのが印象的だった。白36の肩ツキから白42まで感触は悪くなかったが、長考の末編み出した黒43に感心させら

れてしまった。白 44 と一間にとんで黒 45,47 とノゾキを利かし、黒 49 にボウシしたとき、黒 43 が素晴らしい位置にあるのである。おそらく白 44 でもっといい打ち方があったように思え、ここからしばらく黒のペースとなる。北山君によると、黒 53 が緩着で、白 54 とコスミ地を稼ぎつつ根拠を奪いに行くべきだったそうだ。白 66 と下辺に打ち込んだのはよいが、白 68 と打ったのが良くなく、黒 69 の一路右まで踏み込むのが面白かった。白 98 まで下辺の白を落ち着かせたのはよいが、上辺の白との攻めを睨みつつ、ジワジワと寄り付かれ地合いもかなり悪くなってしまった。最後の敗着は白 134 であり、黒 135 のところに出ていくより他なかった。最後は黒 11 目半勝ちの大差となってしまった。

チーム全体の結果としては、副将の成也以外全員負けてしまい、結果 1-4 の負け。大きな力の差を見せつけられる結果となってしまった。次の選手権もおそらく京大が出てくると思われるので、どうにか一矢報いられるよう頑張りたいところである。余談ではあるが、京大のチーム間の仲は悪いらしい。何故かはよくは知るまい。

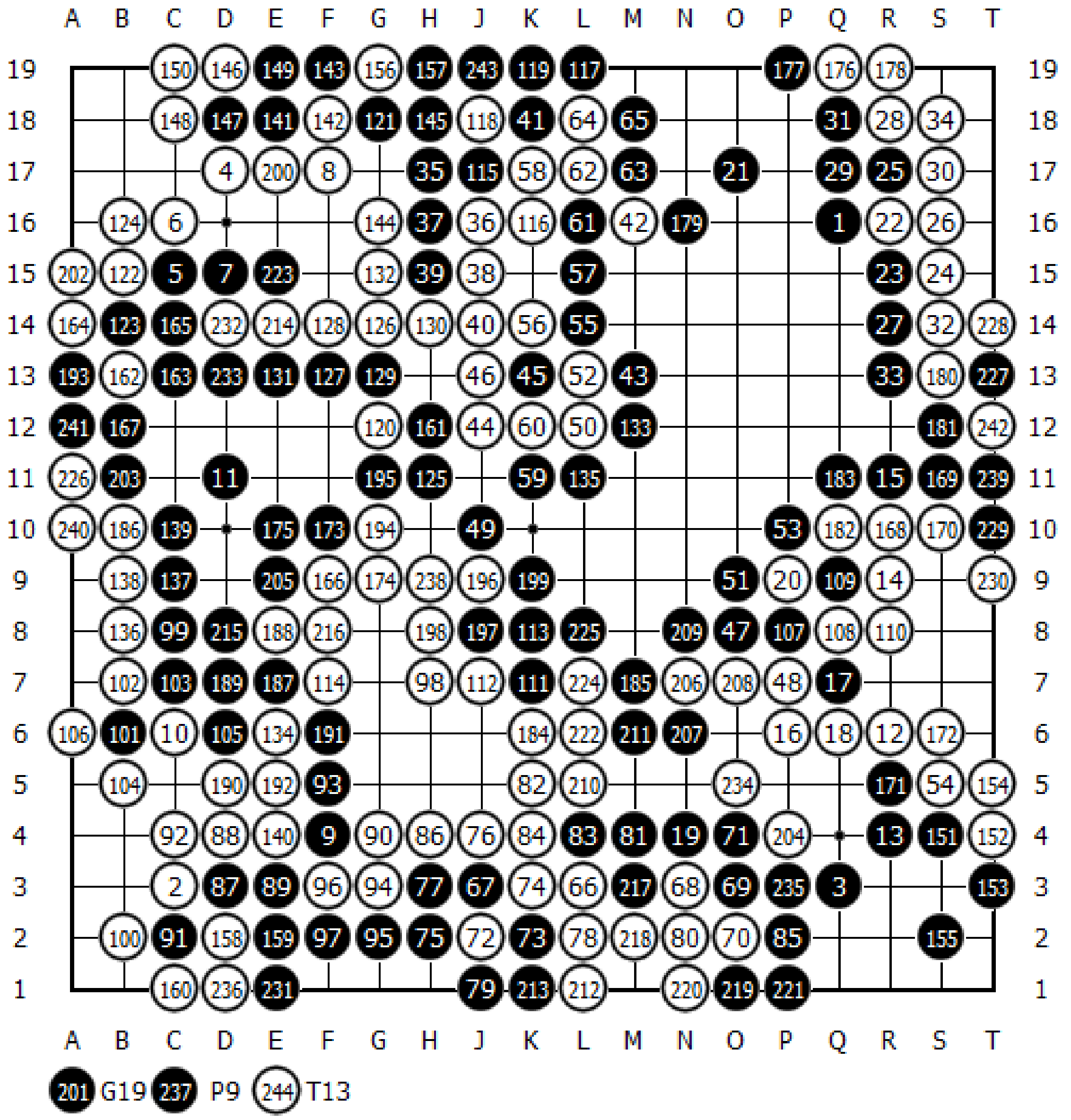
2021 年度　大学選手権　VS 京都大学　三将戦

黒　北山　雄貴

白　谷川　大地

結果　黒 11 目半勝ち

総譜(1~244)



七回戦対北大

今年度の選手権最後の対局は北海道大学。泣いても笑っても最後の対局であり、5 位フィニッシュのためにも落とせない戦いである。北大は 2 年前まで、九大と東北大の 3 校で争ってきた大学であり、東北大は北大に強く、北大は九大に強く、九大は東北大に強いという綺麗な三すくみとなっており、2 年前の選手権では個人の勝ち数で順位が決まるという激アツな関係であった。今年は九大の戦力が上昇し、北大の戦力がやや落ちたこともあり、九大が北大に 12 年ぶりに勝ち、その点でみると東北大の方が分がいいと思われた。北大は補欠 1 の月岡君、補欠 2 の長島君が強く、特に補欠 1 の月岡君は成也と地元が同じで仲が良く、今もネット碁を通じて何度も対局している仲のようだ。オーダーは主将秋君、副将成也、三将七虹ちゃん、四将谷川、五将望月君で挑む。

まず私の対局から振り返ろうと思う。相手は四将の長島君で、金髪である。また同じ全日本幹事ということで顔なじみの仲である。碁は粘り強く、接近戦に強い印象を受ける。私が黒番である。白 20 までのワカレは部分的には黒不満がないが、この配石であれば白が面白いと感じた。白 22 はコスミではなくハサむ方が良かったと思われる。黒 27 までやや下辺の白の味が悪い。白 28 は工夫の一手で、黒 39 で三々からヒラくくらいが普通であるように感じたが、ここは気合いで割って入りに行った。黒 57 まで上辺の白 5 子を攻めつつやや黒優勢であるが、白 5 子を取り切るのは大変でまだ形勢は難しい。黒 63 で上辺の白 5 子を本気で取りに行くことも考えたが、白に 8Q あたりに打たれると右辺が非常に大きくなり自信がないので実戦のように黒 63,65 と消しにいった。黒 67 のハネダシから黒 69 のノゾキは狙いの一手で、5 J のツケコシを見ている。黒 79 までのワカレは下辺の白地を削りつつ、黒が逆に厚くなり、ここで黒優勢がはっきりした。白 80 が敗着に近い一手で、左辺に手を付けにいくべきだった。その後もコウ絡みの難しい戦いが続いたが、最後は白を仕留め切り、黒中押し勝ちとなった。

チーム全体の結果としては、主将秋君、副将成也、四将谷川、五将望月君で勝ち、見事最終戦を 4-1 の勝利で飾ることができた。余談ではあるが最終戦が終わった後、表彰式と閉会式が行われたが、選手権メンバーの新幹線の便などの関係で打ち上げを行うことができなかったが、その代わり、全日本幹事メンバーでもある松尾と長島君の 3 人でとんかつ屋でミニ打ち上げを行うことができた。金髪に染めた理由なども聞けてよかった（？）。

最後に

今回の選手権は最終的に 5 位という結果に終わり、4 年連続 3 位にはなれませんでした。しかしながら、メンバーの大半が 1,2 年生であり、自分も含めてまだ来年があると思うと伸び代がまだまだあるので、次の選手権では 3 位以内に入れるよう頑張りたいと思います。特に私は次が最後の選手権になるはずなので、悔いの残らないようやっていけたらと思い

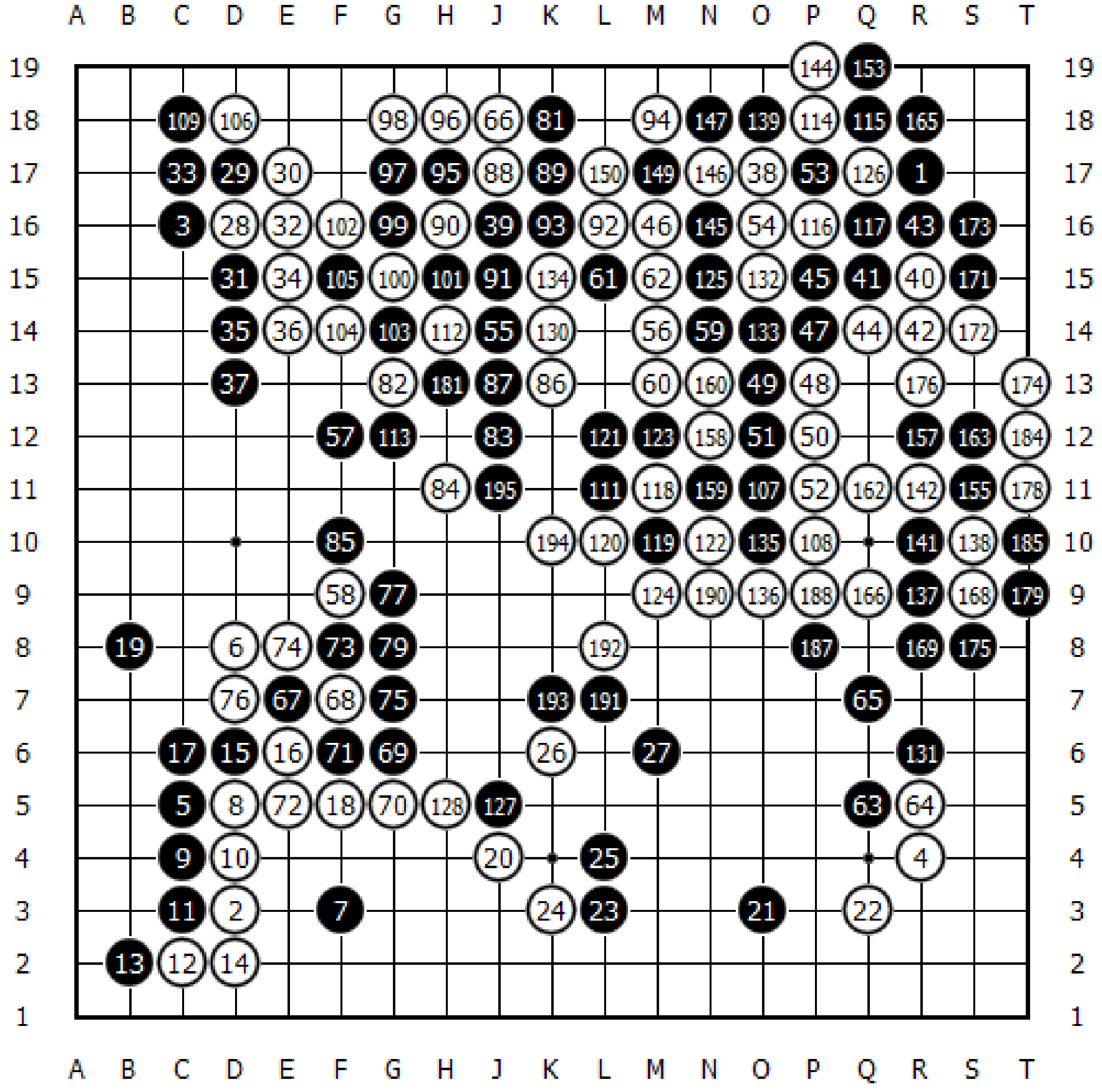
ます。また今年度は三将の七虹ちゃんが連盟賞を受賞しました。次の選手権でも東北大から連盟賞を受賞する人が現れたらと思います。早く新型コロナウイルスが無くなり、2 年前のときのように東北大囲碁部の部員やＯＢ・ＯＧで盛り上がれるようになればと願っております。最後になりますが、ここまで長文お読みなって下さり誠にありがとうございました。

（文責:谷川大知）

2021 年度　大学選手権　VS 北海道大学　四将戦

黒　谷川　大地
白　長島　康裕
結果　黒中押し勝ち

総譜(1~195)



78 F7　80 E7　110 G15　129 P17　140 Q17　143 P17　148 Q17　151 P17　152 M17
154 Q17　156 P17　161 M10　164 M11　167 M10　170 M11　177 M10　180 M11　182 G14
183 M10　186 M11　189 M10

金沢大交流戦

３月２７日、東北大学と金沢大学の交流戦がオンラインで開催されました。企画・運営は五十嵐成也さんと金沢大学の中村有佑さんによって行われました。内容は、両大学の７名が 2 試合ずつ、互先で打つというものです。私も代表として出場し、金沢大学のチャさん、小垣内さんと対局しました。今回は、私と小垣内さんとの対局を振り返ろうと思います。小垣内さんは金沢大学でも１、２を争う主力の選手で、相当な実力者です。そのような相手と交流戦で対局できたことはとても貴重な機会でした。結果は盤面で大差をつけられて負けましたが、学ぶものが多かったと感じています。序盤戦では、右下の形が悪く、評価値が大きく下がっています。定石を間違えたため、白の形が根拠をもちながら安定し、先手を譲ることになってしまいました。17 で下からハネて、多少白を外側に行かせてでも盤石な打ち方をするべきだったと感じています。そのほかで特筆すべき点は、左上の黒石を重くしてしまい、上辺の白をかためてしまったことでしょう。ここからさらに絶芸の評価値が下がり、100 手目ではほとんど決着がついているような状態でした。せめて三間にヒラいた一子か左上の三子を利用してサバくといった方針を取るべきでした。
棋譜は 100 手まで、小垣内さん 36 目半勝ちです。

（文責：続隼人）

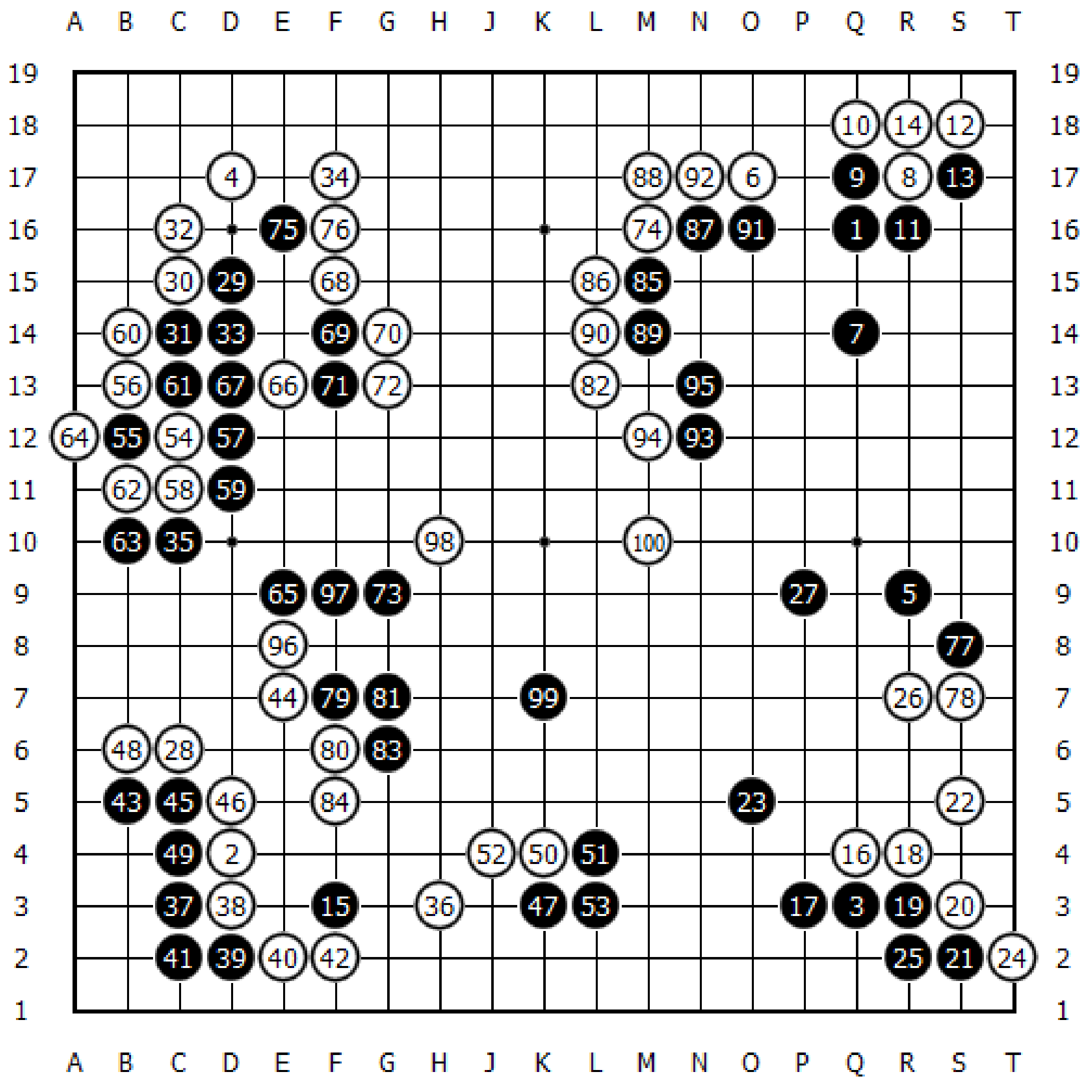
金沢大　交流戦

黒　続　隼人

白　中村　有佑

結果　白 36 目半勝ち

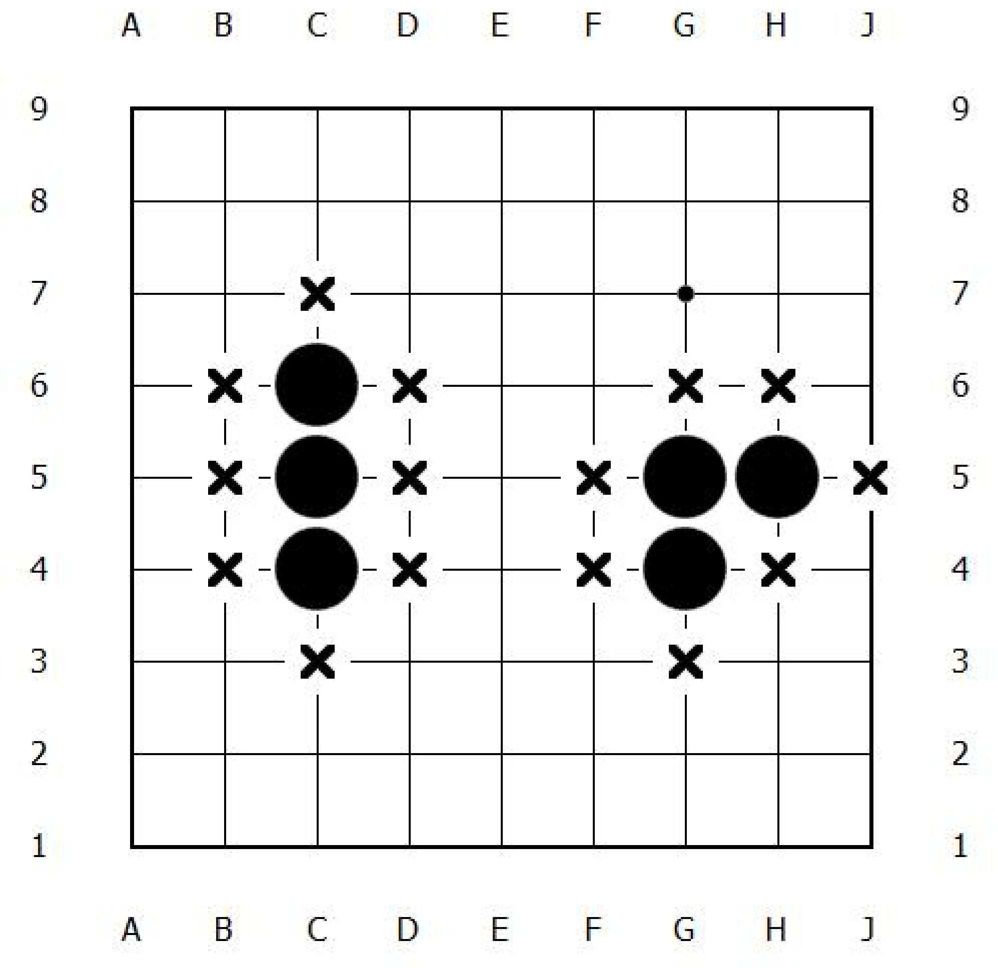
総譜(1~100)



コラム１　テトリス碁

部内で大流行しているテトリス碁について紹介する。テトリス碁とは、自分の石が４つ繋がる地点に打ってはいけないという特殊ルールを追加した囲碁である。下図の×が、黒の着手禁止点を表している。テトリス碁は、筋や石の形に関する感覚をバグらせるという欠点を持つ一方、テトリス碁ならではの手筋が上手く決まった時には脳汁が溢れ出て、えもいわれぬ高揚感を我々にもたらしてくれるという素晴らしい美点を持つ。

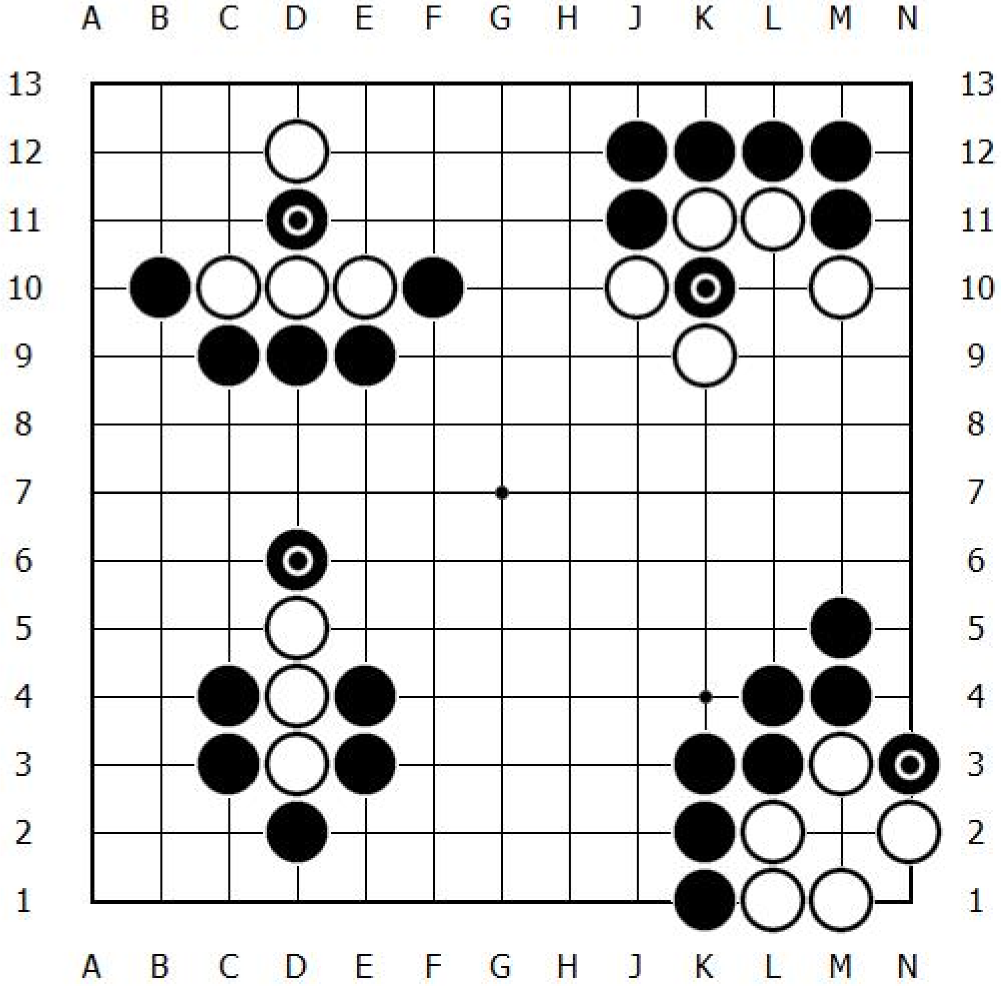
（文責：菊地秋）



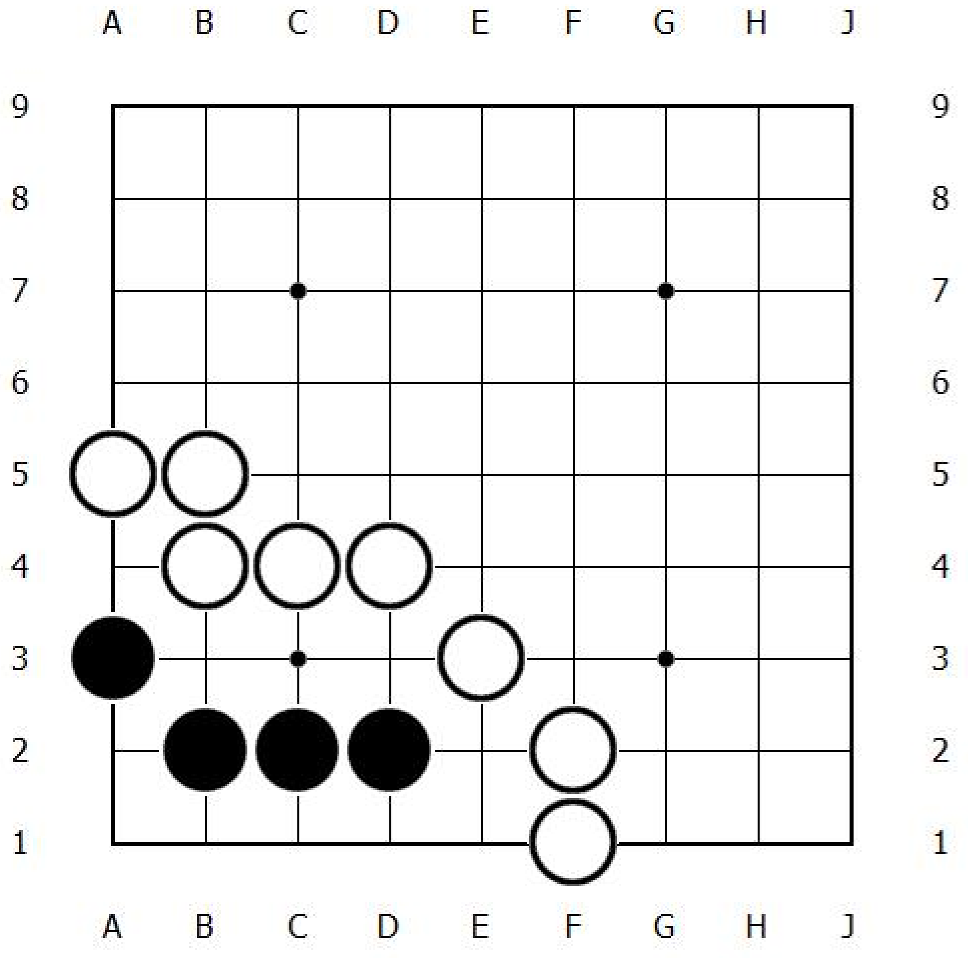
補足
5 つ以上自分の石が繋がる手は打ってもよい。
例　(G-2 に打った後 G-3 に打つのは ok)

コラム１

テトリス手筋集



テトリス詰碁



白先黒死

ヒント：四目中手はセキ

新入部員紹介

● 2020年度新入部員

五十嵐（成）：
工学部化学バイオ工学科。五十嵐の弟。学生十傑戦で準優勝の経験あり。東北6県大会に主将として出場するも、寝坊により1回戦に遅刻。部員を鶯リーグ（大学生囲碁リーグ）に誘うなど、東北大囲碁部を引っ張る存在。反シーシャ派。

望月：
工学部電気情報物理工学科。山梨出身。AIを使うなどして、研鑽を積んでいる実力者。普段は大人しいが、カラオケでは皆を盛り上げてくれる。

大畑：
理学部地球科学科。千葉出身。独特な発想で力強く戦い、部内リーグでは格上にも一発入れる力がある。

小澤：
医学部医学科。多忙ながら、選抜リーグに参加してくれた。

● 2021年度新入部員

菊地：
経済学部。元二高囲碁部。高校のときから、東北大囲碁部に通っていた。最近、とても強くなり2年生のエース。かわいい。T川さんを尊敬しており、その影響でギャンブルもする。シーシャ派。

続：
工学部電気情報物理工学科。秋田出身。シーシャをこよなく愛し、日々普及に努めている。部室によくいる。シーシャ派代表。飲み会での表情が豊かで、みんなを笑わせてくれる。面白いことをよく言う。

高橋：
経済学部。山形出身。ダーツや飲み会をよく企画してくれる。シャイな人が多い囲碁部の中ではコミュ力が高い貴重な人材。

千葉：
理学部地球科学科。元二高囲碁部。剣道部と兼部している。最近、筋トレをしているらしい。池田エライザが好き。

末長：
経済学部。大学から囲碁を始めたが、熱心に勉強し、実力をつけている。部長。

宮田：
法学部。元二高囲碁部。数少ない女子部員。こども囲碁大会などを手伝ってくれる。

道垣内：
医学部医学科。数少ない女子部員。忙しそうだが、たまに囲碁大を手伝ってくれる。

大宮：
工学部電気情報物理工学科。元二高囲碁部。数少ない女子部員。選手権連盟賞。女子学生本因坊戦４位。マリオカートが大得意（？）。もっと女子が部室に来てほしいと思っている。反シーシャ派。

編集後記

編集長を務めさせていただきました、大宮七虹です。寂韻は読むのはとても楽しいのですが、作るのは思っていた以上に大変でした。まず、原稿を全て集めるのに苦労しました。原稿を依頼したら、書けたら書きますとかって返信してくる人もいるし…結局書いてくれたけど。それから棋譜。これも、一手一手全部入力したんですよ‼まあ、棋譜並べをしたということで、半目くらいは強くなっていると信じています（笑）

私が担当した 2020、2021 年度は新型コロナウイルスの影響で、ほとんどの大会が中止になってしまい、あまり書ける大会がなかったのが残念でした。さらに、楽しみにしていた OB 交流会も中止ということになってしまい、私の寂韻へのモチベーションはかなり低下してしまいました。しかも、編集するぞ！と思って Word を開くと、つい文章を読んでしまってなかなか作業が進まないということがありました。そういう事情があり（？)、寂韻の公開が非常に遅れてしまったことをお詫びします。申し訳ありません！！

私がこれを書いているのは 2 年の夏休みなのですが、1 年生の頃と比べるとだいぶ部活動ができるようになってきたと思います。最近、部内ではマリオカートが流行っているので、皆で仲良く対戦しています。また、北大や九大、早稲田大の方々が東北大に遊びに来てくれたり、逆に北大囲碁部に遊びに行ったりと交流を深める機会もありました。囲碁はインターネットでも打てますが、私はやっぱり対局相手が見える状態で打つ方が好きです。早くコロナが収束して、以前のように様々な大会が対面で開催されることを願っています。

いろいろ大変でしたが、なんとか 4 年分の寂韻を完成させることができてとても嬉しいです。部員みんなが囲碁が大好きなのが伝わってくる寂韻になったのではないかと思います。原稿を書いてくれた皆さんのご協力のおかげです、本当にありがとうございました。それから前編集長の健太さん、いろいろ相談に乗ってくださり助かりました。これからも楽しく部活動ができたらと思います。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

（文責：大宮七虹）